

テーマ別意見一覧



開催期間：令和2年10月8日～23日

テーマ別一覧

01. 防災について
02. 人口減少について
03. 高齢者の足の確保、生活支援について
04. 除雪について
05. 公共温泉の民営化について
06. (仮称)十文字中央跡地について
07. 閉校舎・学校跡地利用について
08. 道路・交通安全・河川・上下水道について
09. (仮称)亀田地区園地維持対策チームについて
10. 地域づくりについて
11. 大沢バイパス開通に伴う旧国道の扱いについて
12. 地区交流センターについて
13. 横手駅西口、横手西地区について
14. 公共施設の利活用について
15. 学校、教育、教育環境、設備について
16. 集会施設の負担軽減化について
17. スポーツ施策・公共施設について
18. 有害鳥獣、アメシロ、ナラ枯れについて
19. 農業について
20. 空き家問題について
21. 大森病院について
22. 議会、議員について

01.防災について

【避難所・備蓄】

- 【金沢】 ■ 避難所を設営した際、老人が多くベッドが必要。
- 【金沢】 ■ 備蓄品の中にベッドなどの寝たきり老人を想定したものが必要ではないか。
- 【金沢】 ■ 避難所は少し寒くなれば毛布や暖房が必要だが、数量などの管理・把握は危機管理課のみのため、地元としては数がいくら来るのかなどについては全然分からない。
- 【金沢】 ■ 孔城館に大分備蓄品は置いているが、運搬の問題がある。運ぶのに大分遠いところもある。やはり中央の方に備蓄品をもう少し置いた方が良いのではないか。
- 【金沢】 ■ 使っていない毛布やベッドを地元としてストックしてはどうか。（危機管理課の管理外で）
- 【金沢】 ■ ダルマストーブや賄い用の窯は活性化連合会の方で要望して入手した。
- 【金沢】 ■ 炊き出しの練習が必要ではないか。
- 【大沢】 ■ 避難所、備蓄品は大丈夫？「想定外」はないと思え！！
- 【福地】 ■ 備蓄品の充実 ※配置する場所が不安
- 【川西】 ■ 土嚢が足りない
- 【沼館】 ■ コロナ禍で段ボールベッドや仕切りなどはどうなっているのか。
- 【沼館】 ■ 避難所に行った時に防災の備蓄品がどうなっているのか。旧北小に毛布などがあるが10人分くらいしかない。不十分ではないか。配置場所などの再検討が必要ではないか。
- 【館合】 ■ 第一に、地区交流センターが避難所になっているが低い場所であり、地域が浸水した際の避難所になり得る場所がないのでは
- 【館合】 ■ 消防署（分署）も場所的に水害にあう可能性がある。例えば、中の機器、燃料等、重要なものについては2階に設置しており、簡単には機能が失われなくなっているが、車両は水の中を走れない。
- 【大森】 ■ 大森小学校は、大雨の時は避難所として使えないのではないか。以前断られている。子どもたちだけでなく、地域住民も受け入れてもらえるのか。
- 【大森】 ■ 29年大雨の際、大森コミュニティセンターに200名避難した。近くに庁舎があるので情報が逐一入ってきたが、避難所のハードソフト両面のケアが必要。バリアフリーになっているか（大森コミセンは入り口が階段になっている）。和室だと膝が痛くて長時間座ってられない。冷房がない。これまでは、避難所の環境まで想定していなかったのではないか。
- 【川西】 ■ 川西公民館が避難所になっていることが現実的ではない、4、5年前から同

じ話をしているのに、一向に変わらない。市としては、地域住民を交えてこれからの避難所を話し合っていたいただきたい。そして、地域全体で共有してほしい

- 【川西】 ■ 3年前の水害で大森地域局が機能を失った。立て替えが発生するとすればその点も十分に加味、検証が必要である
- 【川西】 ■ 川西公民館は洪水の時は避難所として使用できない。雄物川のほか、ため池もあり心配
- 【沼館】 ■ 避難所における感染症が心配。
- 【沼館】 ■ 避難所が開設されたとすれば、その避難所の情報についてどのようにお知らせするかが課題。
- 【沼館】 ■ 避難所の人数や広さ、対応など、スマホを利用した情報伝達がこれからは必要。
- 【沼館】 ■ 避難所は夏とか冬とか、季節に対応することが必要。
- 【沼館】 ■ 火事の場合も避難所に避難できるようにする体制が必要ではないか。
- 【里見】 ■ 避難場所の再確認
- 【沼館】 ■ 雄物川新庁舎は低いのではないか。（避難所として大丈夫か）

【日頃の意識づくり・体制づくり】

- 【金沢】 ■ 意識付けの中では、夜の一人行動は危ないだとか、水路を一人で見に行かないとか、そのような話や、堤やため池はどうなっているのか、ダム の管理体制はどうなっているのか、放流のタイミングはどうなっているのかなど、そういうものも住民同士の共有が必要。
- 【金沢】 ■ 住民同士の共有という面では集まる機会が減っているので、例えば市のクリーンアップの時などに泥上げをしながら、この水路はどうなっているのかみたいなどころから防災の意識をそこで話すのも良いタイミングではないか。
- 【金沢】 ■ 最低年に1回は公民館の片づけだとか草むしりだとかで、住民が集まる機会を作っていきたい。
- 【金沢】 ■ 自主防災の中で必要なのは近所の一人暮らしや寝たきりの方などの把握は、近所になったところでやっていかなければならない。全体ではなかなか難しい。その為にも年に1回は集まりが必要。総会、お祭り、青年部、婦人部、いきいきサロン等いろんなものを活用して集まって、ちょっとしたところから話をしていくのが防災につながるのではないか。
- 【金沢】 ■ 防災意識の向上、避難所は最低3日間我慢できる体制づくり、最終的には個人個人の命を守る行動が大切である。
- 【金沢】 ■ 町内の連絡網がない。
- 【金沢】 ■ 各町内会で具体的に避難する方法を考えなければいけない。それには民生委

員や福祉協力員の協力が必要である。

- 【金沢】 ■ 隣の集落との情報共有が必要。
- 【金沢】 ■ 孤立する恐れがある集落等に関しては老人施設などとの協定が必要ではないか。
- 【金沢】 ■ 社協の事業として町内会単位のネットワーク会議というものがあるが、なかなか手上げが少ない。町内会毎の意識の差がある。
- 【金沢】 ■ 地区の総会では事業報告や会計報告をやって酒を飲んで終わりというパターンが多いが、一つの例としてだが、八王子町内会では総会時に見守りマップを広げてみんなで意識を共有している。
- 【金沢】 ■ 青年会に集まってもらって防災意識喚起を行っている。
- 【金沢】 ■ 75歳以上一律の名簿はどうか。
- 【福地】 ■ 避難時に高齢者宅等に対しての声掛けを民生委員だけでなく地域の消防団がしてくれており、民生委員としてはありがたい（民生委員の負担の軽減を図ってほしい）
- 【大森】 ■ 各地域の防災意識をどう高めていくのか、町内ごとにやらなければならない
- 【大森】 ■ 高齢者一人暮らしの避難が課題。29年大雨の際、行政からの連絡が伝わっていない。大森地域局では、冬前に保健師や民生委員と一緒に高齢者宅を訪問している。
- 【川西】 ■ 川西地区では組織化を図り、いろいろな取り組みをされていることが分かったが、課題となる点がいくつかある
- 【川西】 ■ 300ミリの雨量は経験しているが、他地域でみられる500～800ミリの雨量があった場合にこの地域がどのようになるかという不安がある。市としても対策をお願いしたい
- 【川西】 ■ 要支援者が200人ほどいることが分かっている。災害時にどう対応するか、各防災会で協議する必要がある
- 【川西】 ■ 自助から共助、最後に公助となるが、どうやってその連携を生かしていくか、仕組み作りが大切である
- 【川西】 ■ 自主防災組織を立ち上げたが、いざとなったらどのようなステップで行動するかはまだ明確になっていない
- 【川西】 ■ 自助、共助、公助とあるが、向こう三軒両隣、昔の隣組のグループを復活させ、誰が誰を助けるかをきちんと決めておく必要があるのでは
- 【沼館】 ■ 災害に対する意識が足りない。これまでに被災されたところの生の声を聞く必要がある。
- 【沼館】 ■ 想定外を想定しなければならない時代になった。より細かい地区の対応が必要になる。
- 【沼館】 ■ 民生委員などの役割の重要性を見直す必要がある。
- 【沼館】 ■ 命を守る体制を作ることが必要。例えば水害であればあらかじめ予想もできるので、予想がつくものについてはしっかりと命を守る地域の意識と体制を作っていくべきだ。

- 【沼館】 ■ 隣近所の声かけが必要。
- 【沼館】 ■ 若い人とお年寄りのコラボが重要なのではないか。
- 【沼館】 ■ 集落の連絡網など、アナログな物との組み合わせも必要。
- 【沼館】 ■ 防災の研修もしているが、なかなか危機意識が無い。実際に災害に合っていないと実感がわからない。
- 【沼館】 ■ 来年はクリーンナップを是非実施して欲しい。それが話す良い機会になる。
- 【沼館】 ■ 個々、各町内の意識付けが非常に大切だ。
- 【沼館】 ■ 過去の教訓を生かすのも大切。昭和22年の洪水などは忘れてはいけない。

【要支援者名簿】

- 【金沢】 ■ 要支援者名簿について、町内会毎に作る必要があるのではないか。
- 【福地】 ■ 要支援者名簿に入っていない方について地域独自の名簿作成をしている。もれのないように地域で頑張っている
- 【館合】 ■ 問題になるのは、高齢者の対策。若い人と同居していればいいが単独世帯だと、自分で登れない状況も想定される。要支援者の名簿の作成が必要になると考える
- 【館合】 ■ 要支援者の名簿づくりについては、担当課と社協の連携が重要。民生委員だけでは無理があるので町内会等の協力が不可欠
- 【川西】 ■ 要支援者名簿はできているが、運用上個人情報にネックになっているのではないか
- 【川西】 ■ 集落の中で要支援者名簿を作る際、情報提供時の混乱が見られるので考えるべき
- 【川西】 ■ 要支援者名簿を作ったが、活用方法をどうするかが課題。個人情報よりも命が大切ではないか
- 【沼館】 ■ 要支援者名簿もあるが、なかなか町内会として受け入れられている町内会、手に余っている町内会、もしくは個人的に構わないで欲しいというような町内会、さまざまあるようだ。新しい団地だと特に難しくなっている。

【防災リーダー・人材育成】

- 【金沢】 ■ 自主防災組織の中で防災に対する体制づくりが必要。リーダー育成。
- 【金沢】 ■ 町内会にリーダーが必要。どうやって育てるかが問題。しかし消防団や青年会は日中なかなか家にいないという問題もある。
- 【金沢】 ■ 防災リーダー育成のための補助金を創設できないか。

【自主防災マップ】

- 【金沢】 ■ 金沢地区の防災マップを作って配布した。さらに細かく、各町内会の中でも住宅地図やグーグルマップを活用して、消火栓がどこにあるのか、防火水槽がどこにあるのかなど、防災マップ作りにおいては身近な話題の話を出しながら行っている。
- 【金沢】 ■ 個人の意識づくりが非常に重要。防災マップを作っても個人個人が全員それについて知っているかということそうでもない。実際は隔たりがあるのが現状。意識付けをどうするかが一番の問題。
- 【金沢】 ■ ここは安心なところだから大丈夫だと思っている人が多い。最近はゲリラ豪雨などもあり、とんでもないところで災害が起こるんだということを知ってもらう必要がある。実際に今回のマップ作りのきっかけになったのは3年前の豪雨。
- 【金沢】 ■ マップの全戸配布を最近したが、コロナの関係で、配付後の意識付けの会議などができておらず、次に進めない状況がある。もどかしい。
- 【金沢】 ■ 防災マップはスタンダードであって、応用する部分が必要。
- 【金沢】 ■ 防災マップ自体への理解が足りない。避難所、避難場所、要支援者含めて。
- 【福地】 ■ 避難場所が無い→福地地区避難場所マップの活用。普及させよ！！
- 【沼館】 ■ 防災マップはあるが、これだけではなかなか細かいところまでは分からない。地区の拡大したものがあれば地区ごとに対応できるのではないか。もっとその地区ごとに理解を深めることが必要だろう。
- 【沼館】 ■ 防災マップはあるが一度も開いたことが無い。実際高齢者がこれを見て避難できるのかといえればできないのではないか。
- 【沼館】 ■ 大きな区域の防災マップではなく、沼館なら沼館のピンポイントの防災マップが必要。
- 【沼館】 ■ 金沢地区では交流センター事業としてマップを作っているが、福地も作っているらしい。
- 【沼館】 ■ 防災マップについている今の避難所だけではなく、各町内などで増やすべきではないか。民間との防災協定などのきめ細やかな見直しが必要ではないか。集落会館は減ってきており、すごく寒い。

【避難行動・災害時の行動】

- 【金沢】 ■ 市道が水没したら避難所までどうやって行ったら良いのか。どうやって逃げ

るか具体的な方法が見つからない。

- 【金沢】 ■ 最後は住民の「避難するという意識」が一番重要。
- 【金沢】 ■ 前の大雨では金沢公民館への避難が難しいことから道の駅に避難誘導した。避難経路自体に問題がある。
- 【金沢】 ■ 住民の避難行動に関する意識が一番重要である。
- 【福地】 ■ 避難訓練 9/6（日）実施
- 【館合】 ■ 避難の形として、現実的には垂直避難しかない場合もある。平場では、一気に何メートルも水位が上がるわけではないため、水が引くまで時間をかせぐ必要
- 【館合】 ■ 最も想定される災害は大雨であり、地域での問題は、ダム放流による水位の上昇。浸水の危険が非常に高まる中で、ダム情報の伝達が機能しなければ危険度がより高くなる
- 【館合】 ■ 防災無線がなくなることが決定している中で、防災ラジオでは代用にならない。情報伝達が十分でない中での避難の仕方、逃げ遅れが困る状況になるのではないか
- 【館合】 ■ 災害の場合の足の確保について、要支援者を誰がどういうルートで避難所に連れていくのか、集落内で確認しておく必要がある
- 【大森】 ■ 避難する方法、手段について、誰がどう協力するか課題。
- 【大森】 ■ 地域でどこが安全な場所なのかを共有しておく必要がある。29年大雨の際、避難所（大森コミセン）まで来られなかった人もいる。（その後、マイタイムラインの訓練を実施）
- 【川西】 ■ 十日町地区で避難訓練を実施した。同地区はさくら荘や大森体育館に避難できる地区であり、安心はできる。自助、共助という部分では、進んでいる地区である
- 【沼館】 ■ 高齢者を含む要介護者について避難先の確保が必要。
- 【沼館】 ■ 避難行動について、市指定の公共施設の避難所だけではなく、地域によっては2階建ての会社などもあるので、本当に緊急を要するのであれば避難所に行くのではなく、地域の会社などへ避難というのにも必要。
- 【沼館】 ■ 地域で避難所、避難場所を確認することは非常に大切。

【防災無線・ラジオ・サイレン・伝達方法】

- 【金沢】 ■ 最近住宅の気密性が高まり、半鐘やサイレンなどが聞こえない。そこはどうしたら良いか。
- 【金沢】 ■ サイレンは地元として宝くじ助成に要望している。昔はサイレンや半鐘で火事の際はこういう感じに鳴らすだとか、火の用心では何時と何時に鳴らすだとか、そういうところから子ども心にも防災意識が芽生えるのではないかと

思うが、そういうのが最近無くなってきた。

- 【金沢】 ■ もっとFMラジオの活用が必要。防災ラジオは不公平感なく全戸配布した方が良い。難聴地域もあるので違う手段も考えながらリスク分散をしていったらどうか。
- 【金沢】 ■ 伝達方法について、高齢者には危険であるという情報が伝わりにくい。
- 【横手西】 ■ 防災情報発信の方法について。熊の情報などは防災ラジオでいち早く流したらどうか。
- 【横手西】 ■ 防災ラジオの在り方、防災無線が廃止される方向だが地域に合った細やかな対応が必要。
- 【福地】 ■ 防災無線が無くなり不安である→FMの電波が入らない。避難弱者への対応
- 【館合】 ■ 成瀬ダムが作られているが、ダム放流の問題が増え、水位がさらに増すことも想定される。相当注意して見守る必要があるし、迅速に情報を伝達する手段を確保してほしい
- 【館合】 ■ 防災ラジオの広い活用を考えて欲しい。試験放送だけでなく、市民への情報伝達として活用する方法があるのではないか
- 【大森】 ■ 防災の情報発信について、防災行政無線が無くなったらどうなるのか。
- 【大森】 ■ 防災ラジオは機能していないのではないか。3年前の大雨の時、大森地区には放送されなかった。
- 【川西】 ■ 雄物川沿線、さまざまな危険情報があっても、市民にどのように伝わるのか心配である
- 【川西】 ■ 防災無線が使用できなくなることが分かっており、代替えの対策が必要
- 【川西】 ■ 防災無線について、今はあるが無くなると困る。必要である
- 【川西】 ■ 大森の町中で火災があったが、光回線が止まり慌てた。防災無線で流せば解決する話
- 【沼館】 ■ 情報伝達の方法について、雄物川地区は来月から防災無線が使えないということもあり、防災ラジオ等の別のもので置き換えられるのか。
- 【沼館】 ■ 情報伝達について、FM防災ラジオそのものの存在を知らなかった。
- 【沼館】 ■ 防災ラジオがあっても電波が入らないところがある。
- 【沼館】 ■ 11月から防災無線が無くなるが情報伝達の手段として防災無線は有効だ。修繕費用がかかる。
- 【沼館】 ■ 安全安心メールについて、登録無料だが通信費がかかる。なかなか登録が進まない。安全安心メールの存在自体知らない人がいる。もっと周知をする必要があるのではないか。特に保育園の保護者に登録してもらえれば、小学生や中学生にも伝わっていくのではないか。
- 【沼館】 ■ 横手市では防災ラジオを情報伝達手段の中心に置くということであれば、まずは電波が入らないところを解消することが必要。それを含めて防災ラジオの活用方法を再検討する必要がある。
- 【沼館】 ■ 防災無線が10月いっぱい、新庁舎移転に伴い廃止される。地域を回る広報車も出るが、最近の住宅は気密が良いためなかなか聞こえない。

- 【沼館】 ■ 防災ラジオは特定の方にはあるが、一般の方には無い。全戸配布は出来ないのか。
- 【沼館】 ■ 合併して横手市もかなり広くなったので、雨の状況や災害の状況は一律ではない。地域差がある。なかなか他の地域の情報は分からない。一番身近な地域局単位で発信していくのが一番良いのではないかと、ただ発信の仕方も危機管理だけではなく農林などいろいろな課からの情報があって分かりにくい。
- 【里見】 ■ 防災ラジオを全戸に配布してほしい
- 【山内中央】 ■ 安全安心メールの登録をすることで不審者情報が入る
- 【保呂羽】 ■ 横手かまくらFMが聴こえない（大平地区）。
- 【保呂羽】 ■ 通信ができない地域がある。消防の連絡も来ないしかまくらFMも聞こえない。

【その他】

- 【金沢】 ■ モータースクールの隣の沼だとか用水路、畦畔などの決壊がある。
- 【大森】 ■ 今後、「自助」ができない人が増えていく。支え合う余裕がなく、避難指示が出て一人では動けない。
- 【大森】 ■ 29年大雨の際、浸水地域では石油ボイラーが全部だめになった。市の助成手続きが非常に煩雑だった。住民にとって生活再建は急務で、被災者にはストレスもある。手続きは簡素化するべき。
- 【沼館】 ■ この前の大森の河川の例もあるが、大きい河川だけではなく、やはり中小河川、用水路なども地域ごとに独自の話し合いが必要ではないか。
- 【沼館】 ■ 堤防をしっかりと作る事も防災になる。建設はなかなか難しいし時間がかかる。
- 【沼館】 ■ 3.11の話もでた。停電の時に高齢者はろうそく（火）を使いたがる。危ない。
- 【沼館】 ■ 火事、水害含めて消防団のがんばりはすごい。
- 【醍醐】 ■ 消火栓を触れられない。廃止に対して市から説明がない
- 【山内南】 ■ 要望。消防団のホースに穴が開いているので直してほしい（山内4-3）

02.人口減少について

【つながり、地域、コミュニティ】

- 【保呂羽】 ■ 町内の行事が少なくなったことで、横の繋がりが希薄になった。
- 【保呂羽】 ■ 一人暮らしなど年配の方と話す機会が増えた。
- 【保呂羽】 ■ 地区交流センター化を進めているが、前田公民館は避難所なのにエアコンもない。もっと地域の声を聴いてほしい。
- 【保呂羽】 ■ 人柄が良くいい地域、隣同士でトラブルがない。皆さん協力的で穏やかな関係性。先日の大森での火事でケーブルが燃えて、しばらくテレビが映らなくなった。1軒ずつ説明に訪問したが、高齢者宅が多く日常から特に声をかけ話すことが大切。集落内であれば、各家庭の状況を分かっている。
- 【保呂羽】 ■ 顔の見える関係性を大事に集落同士と一緒に活動している。かつては、前田地区と坂部地区に分かれていたが、保呂羽小学校ができたことをきっかけに交流が始まった。現在、集落単独での催しは大変で、協力して行っている。お祭りの維持も課題で、やめた集落も出てきている。数珠念仏は中ノ又集落でしか行われていない。一通りの道具は公民館で保管しているので、子どもたちも一緒に集まって実演できないか。
- 【保呂羽】 ■ 保呂羽地区では「異世代間交流」の事業を行っている。公民館事務員などの若い世代のネットワークで70~80人集まる。コロナ禍により今後どうするか課題。「お楽しみサロン」では、お坊さんの話を聴いたり地域にあるものを活用するなど、公民館と自治会が一緒になって行っている。
- 【大雄合同】 ■ 一人暮らしが増えてきているので、今以上に助け合いの精神が必要だし、地元自治会の役割が今後もっと大切になってくるのではないかな。
- 【大雄合同】 ■ 一人暮らしが増えたので、互いの助け合いが必要。
- 【西成瀬】 ■ 10年前と比べ世帯数で290軒から255軒（▲12%）、住民数で987人から680人（▲31%）。
- 【西成瀬】 ■ 若者が少ない。若者が少ないと地域の行事ができなくなる。
- 【西成瀬】 ■ 50代で若い方であるというのが現実。
- 【西成瀬】 ■ 多くの会で同じ人が役員になっている。
- 【西成瀬】 ■ 一人、二人世帯が非常に多くなってきている。
- 【西成瀬】 ■ 若い人は自分の生活でいっぱいになっている状況があるのではないかな。
- 【西成瀬】 ■ 兼業農家が多く後継者がいない。農政にも責任があるのではないかな。
- 【西成瀬】 ■ 切実な話として、子どもたちがいないのでさびしい。
- 【山内中央】 ■ 隣組システムの再構築
- 【山内南】 ■ 高齢者が増えていることで、地元の行事が維持できない。

- 【山内南】 ■ 若い人がいなくて、草刈りなどの地域の仕事ができなくなってきている。
- 【山内南】 ■ 家庭に対する考え方が変わってきている。
- 【山内中央】 ■ 旧小学校区のまとまりがある。中学校がなくなって今後どうか？
- 【山内南】 ■ 一人ひとりが健康で長生きすることで人口を減らさない対策を。
- 【山内南】 ■ いきいきサロン、数珠まわしの行事などは、集まるのが楽しいから続いている。
- 【沼館】 ■ お祭りというのは重要である。
- 【さかえ】 ■ 核家族化により、高齢者とのつながりが薄くなっている。困っていることを言い合える地域にしたい。栄地区の婦人会では、学童保育と一緒に世代間交流事業に取り組んでいる。

【共助組織、雪対策】

- 【保呂羽】 ■ 保呂羽地区全体で見ると、共助組織がいち早くできたことが誇りだが、組織の今後の継続が鍵。
- 【保呂羽】 ■ 雪下ろしを土日にみんなで協力して。
- 【保呂羽】 ■ リーダーの養成が必要。
- 【保呂羽】 ■ 地域おこし協力隊を受け入れるべき。そういった新しい取り組みやきっかけが地域には必要。
- 【保呂羽】 ■ 共助組織の雪下ろしは、安全対策会議を必ず実施し、計画的に進めている。頼む人は固定化してきている。総務省事業で除雪機を購入済みでフル活用している。お揃いのジャンパーを着ると元気が出る。始めた頃は1軒ずつ訪問して注文を取っていたが、次第にお願いする人が増えていった。
- 【保呂羽】 ■ 地域づくり活動補助金について。燃料代や機械代など雪下ろしをする上で助かっているが、人件費に使えないのは不便。毎年活用しているが、5年で終わりという縛りがあり、今後、この補助金が使えなくなるのは困る。
- 【保呂羽】 ■ 雪下ろしにかかる赤字分は県道の草刈り作業を請けることで補填している。自分たちの道だから丁寧に作業する。公民館前のグラウンドや神楽殿資料館前もやっている。坂部地区の県道も請けたいが許可が出ない。請ける範囲を広げられないのであれば、年1回の契約を2回にしてもらえれば、共助組織の自主財源確保にとってありがたい。今後他にやれることは、お墓の維持管理などを考えている。
- 【保呂羽】 ■ 共助組織の引き継ぎ、次世代の育成が課題。65歳で仕事に一区切りつけば、様々な地域活動に協力できる人と言っている人は多い。次に繋げるためには、いい条件でやれる環境を残していくことが大切。雪下ろしの会計は成り立っているが、課題は人。消防団は何かと頼りになっている。地域住民の地

域活動への協力体制ができており、毎年の夏祭りは役割分担している。

【さかえ】 ■ なぜ地域おこし協力隊制度に取り組みないのか。ぜひやってほしい。

【山内中央】 ■ 介護、買い物支援

【山内中央】 ■ 共助組織立ち上げ（雪おろしだけでなく）年間事業を通して活動。運営費、スタッフの確保

【山内南】 ■ 近年気候変動が激しく大雪。年6~7回の雪下ろしが必要で現実には厳しい。共助組織の4回の雪下ろしに15~6万円かかる。

【山内南】 ■ 道路除雪はピカイチだが、マンホールが突出している場所は危険。

【山内南】 ■ 命に関わるような災害がなく、山内は良い所だが、雪が多くて人を呼べない。雪の克服が一番の課題。

【山内南】 ■ ここに住んでいる人たちは、自立・自活することが当たり前で、行政にあまり頼っていないが、雪の克服が一番大切。

【山内南】 ■ 県道などの基幹道路の除雪は良い。市道除雪は朝の1回だけで夕方家に入られない。雪の多い日など状況に合わせて、日中除雪できないか。地域局の指示がないと現場判断で出られないのか。結局、若い人は市内でも雪の少ない方に家を建ててしまう。

【山内南】 ■ 共助や結の取り組みをどうやって次の世代に繋げていくのかが課題。身近なお店をみんなで利用するなど助け合って地域を大事にしていきたい。

【山内南】 ■ 共助組織と、発信力のある地元の「共林荘」でツアー等の商品開発を行いそれを行政が支援する仕組みづくりを。地域おこし協力隊制度の活用など、失敗を恐れずチャレンジを。

【福地】 ■ 福地共助組織に市からの支援をしてもらい、地域維持にさらなる活動をお願いする

【川西】 ■ 人のつながりが深い地域なので、共助が何とかかんとか成り立っているが、いつまでも続くわけではない。近い将来の課題として、しっかりとした考え方を持って進めていく必要がある

【移住定住の促進】

【保呂羽】 ■ 都会からの集客、移住定住にもっと力を入れて。夏休みの子ども体験などは地域の協力が必要。

【西成瀬】 ■ 自然を生かした移住を促進することも必要。

【さかえ】 ■ 若い人への住居補助がない（アパート）。公的支援をお願いしたい。栄地区では5年間で500人減っているが、世帯数は増えている。

【さかえ】 ■ 移住者や移住予定者と地元の交流の場をつくるべき。楽しければ定住するだろう。

【山内中央】 ■ 移住希望者はいない（人を呼べる地域に見えるが）。耕作放棄地はたくさ

んあるが…

- 【山内南】 ■ 魅力のある地域（空気、水、山菜など）だが進展しない。若者の意見も参考にした宣伝が必要。
- 【山内南】 ■ 自然豊かな地区に移住しようという環境を整えてほしい。クマ対策も含めて。
- 【山内南】 ■ 移住者は大歓迎だが、住んでいる自分たちも冬は大変でいやになる。
- 【山内南】 ■ 独身者が多いので、対策が必要。
- 【山内南】 ■ 若い人は同居への抵抗感があるのか、山内地域でも岩瀬などのニュータウンには若者世代が多い。若者向け住宅を増やしたり、同居世帯に補助金を出すなどの対策が必要。
- 【山内南】 ■ 空き家を活用し、夏場だけでも暮らせる仕組み。冬場は都会に戻っても仕方ない。
- 【山内南】 ■ 移住しやすい体制づくり。私たちは雪は嫌だという思いが強いが、雪を見たことのない人たちが山内に来て喜んでくれた。これを共助組織で観光の目玉にできないか。いぶりがっこ（高齢化により大根を作る人が減っている）の作り方を教えたり、山菜や温泉、ジビエなど、実は魅力的な物が多い。「山内〇〇」と冠が付くものを活かし切れていない。先に立ってやれる人がいるのか。みんなで協力するので、リーダー育成に対する行政の補助や支援が必要。
- 【吉田】 ■ 雪害への対応は可能なので、災害が無いことを売りにして都会から人を呼ぶ。安心して暮らしていけるので、子育て世代を呼び込めるのではないか。風光明媚な鳥海山も魅力。

【仕事、職】

- 【西成瀬】 ■ 最低賃金が安い。若い人が就職しづらい。
- 【西成瀬】 ■ 就職先の確保や賃金の確保が必要。
- 【さかえ】 ■ テレワークで仕事ができる企業を誘致してほしい。
- 【さかえ】 ■ 一気に人口減少は解決できない。仕事+給料で都会との格差があることから、企業努力に加え行政の支援も必要。
- 【山内南】 ■ 賃金が安いため、人口は増える見込み無し。若者には、完全週休2日制でなければ敬遠される。南郷地区は、8年間で世帯数は横ばい、人口は60人減、高齢化率10ポイント増。
- 【山内中央】 ■ 出身者が帰ってきてても生活できるのか？仕事がない。帰って来れる環境を整えてほしい
- 【山内南】 ■ 農業では食べていけない。地域に仕事が必要。
- 【山内南】 ■ 道路を整備して企業誘致しても人口は増えなかった。これ以上大規模な企

業を呼べるのか。

【亀田】 ■ テレワークなどの職場機会の確保がもっとできないか。

【醍醐】 ■ 若い人の働く場がない。給料が安い

【吉田】 ■ 新型コロナの影響によりテレワークが可能になってきているので、地元に残ってもいいかなと考えている。（中学生の意見）

【出会いの場】

【福地】 ■ 人口問題。出会いの場を作ってほしい

【醍醐】 ■ 仲人さんを復活してほしい

【里見】 ■ 各集落のデータを集めて利用している。結婚についてなど…

【山内南】 ■ 独身者への支援が必要。出会いの場や集える場所など。

【人口流出】

【保呂羽】 ■ 若い人たちは中心部へ。

【西成瀬】 ■ 若い人を巻き込んだ全体の話し合いが必要。

【さかえ】 ■ 若い人が定着できるための何かが必要。どんな職場が必要か、小中学生や若者から意見を聴くべき。

【沼館】 ■ 少子化、若者が転出してしまう。若い世代に「横手は良い場所だ」と思えるまちづくりが必要。

【里見】 ■ 若者に魅力がる地域にするための工夫をしてもらいたい

【グリーンツーリズム】

【保呂羽】 ■ グリーンツーリズムが今年は無く残念。

【にぎわいづくり、アイデア】

【保呂羽】 ■ 今の状況で何ができるのか、人が楽しめる所がここにはある。いかに人を呼び込むかが課題。

- 【保呂羽】 ■ 地域に対し、お金だけでは無くアイデアの支援が必要。
- 【保呂羽】 ■ 地域の良さ（自然、空気がおいしいなど）をどうPRするか。横手まで新幹線を通すことも必要。
- 【西成瀬】 ■ 市町村合併によって地方が廃れている現状がある。ふるさと創生の考え方が必要ではないか。
- 【西成瀬】 ■ 増田のまんが館、蔵だけでなく西成瀬地区にも観光資源がたくさんあるので観光行政として資源を生かす工夫をしていただきたい。
- 【さかえ】 ■ 大曲の花火のような目玉が横手にはない。テーマを決めて先進地から学んでほしい。
- 【山内中央】 ■ 観光目的の道路整備（東成瀬行きトンネルなど）
- 【山内南】 ■ 三又の水車そば打ちは後継者を探している。魅力を広く発信できていない。
- 【山内南】 ■ 山内いものは県外に流通。「ミズのコブ」がメルカリで売れているので、地元の産品をPRして大きくできないか。
- 【山内南】 ■ いぶりがっこでは通年の仕事にならない。地域おこし協力隊など、本場でいぶりがっこを作りたいという人が来てくれたら。だまっていたら何もならない。
- 【山内南】 ■ 地域の魅力（南郷滝など）を発信できる人がいない。先に立ってやれる人もいない。
- 【山内南】 ■ 公共施設の活用など、身近な場所で一緒に運動できる場所が欲しい。3日坊主で使わなくなった健康器具などを集めたらどうか。1人だと続かないが、みんなでやると楽しい。
- 【浅舞合同】 ■ 浅舞を元気にするために何とかしなければいけない。できることを探らなければいけない。祭りは各家家の負担も大きく、中止になりほっとしているという意見もある
- 【吉田】 ■ ゆるキャラや高級魚の養殖など、ブランドづくりが必要。
- 【吉田】 ■ 県道沿いに商店などを誘致すれば活性化する。
- 【吉田】 ■ 地区が空洞化している。水や空気が良い地域で人を呼べる財産がある。国道が良くなれば、本荘も通勤通学圏内となる。
- 【吉田】 ■ 若い人の意見も聴いて将来展望を考えたまちづくりを。

【交通】

- 【山内中央】 ■ 交通インフラの整備をしっかりと
- 【山内中央】 ■ 高速の複線化を機に山内パーキングを使ったサービスエリアまたはインターチェンジ化
- 【山内中央】 ■ 歩いて買い物ができる場所がない
- 【山内中央】 ■ 公共交通のあり方について、コミュニティバスは走っているが…。交通

弱者への対策を

- 【山内南】 ■ 東成瀬村への道路は、防災や観光の面から通年通行が必要。成瀬ダム工事と一緒にトンネル整備をやればよかった。
- 【山内南】 ■ 秋田自動車道山内PAへのスマートIC設置を。4車線化との関連で進められないか。利用者の確保、国道・県道への接続が課題。

【その他】

- 【保呂羽】 ■ 携帯電話が通じないところに人は来ない（小山地区）。どこのメーカーでもいいのでアンテナが必要。行政が力を出してほしい。
- 【保呂羽】 ■ 人口減少により、町内会館の維持管理が大変。
- 【西成瀬】 ■ 施設の老朽化が進行しており、将来への不安が非常に大きくなっている。
- 【西成瀬】 ■ 子育てしやすいように子育て支援の充実を望む。
- 【西成瀬】 ■ 文化財保存への補助ができないか。（地区の神社の屋根の修理など）
- 【西成瀬】 ■ 若い人たちが遊ぶところが少ないから、自分たちで作る工夫も必要ではないか。
- 【さかえ】 ■ 福祉を良くしなければ人は来ないし残らない。子育て支援策として給食費を無料にしたらどうか。
- 【さかえ】 ■ 若者が遊べる場所が必要。
- 【山内中央】 ■ 市全体で減少を食い止める政策を！！
- 【山内中央】 ■ 県のコミュニティ生活圏形成事業を最大限活用すること！！
- 【山内南】 ■ マンションや集合住宅を建てたら人が来るか？
- 【山内南】 ■ 要望。道路の痛みが激しいので点検してほしい。
- 【山内南】 ■ 空き家を譲渡するにしても、様々な手続きが簡単にできない。
- 【山内南】 ■ 市の政策は横手の中心部だけで地域に届いていない。横手市が遠く感じる。地域局にもっと権限を。
- 【山内南】 ■ IT化が進んでいるが、それについていけない人もいることを考えてほしい。スマホでないとできないこともある。
- 【山内南】 ■ 人口を増やすよりも、現状どうやって生活していくか。
- 【山内南】 ■ 大学進学までも考えると、子育てにお金がかかる。
- 【山内南】 ■ せっかく山内の野球スポ少が全県優勝した。どうすれば若い人たちにとって魅力的な場所になるのか。袋小路の場所だが、好きでここに暮らしている。行政はどう支援してくれるのか、力を借りないとどうにもならない状況になっている。旧横手を中心に一極集中で動いているように感じる。
- 【沼館】 ■ 少子高齢化について問題を先送りしない対策が必要。出生率が全国最低。人を育てる教育が必要。例えば島根県海士町の例など。

03.高齢者の足の確保、生活支援について

【羽後交通バス】

- 【大雄合同】 ■ 横手から大雄まで広く巡回するバスがほしい。
- 【大雄合同】 ■ もっと利用しやすい路線にするために、羽後交通との話し合いが必要ではないか。
- 【大雄合同】 ■ 北部の新町方面が特にバスが無くて大変だ。
- 【大雄合同】 ■ バスの乗車料金が高いので、利用者や事業者に対し補助できないか。
- 【大雄合同】 ■ 遠いバス停まで歩くのが大変。
- 【大雄合同】 ■ 大雄地域の路線バスは「大森線」のみで南北の路線がない。
- 【福地】 ■ デマンドが利用しやすいのでは…
- 【福地】 ■ まあまあ評価！バス停の数の点検と環境の点検
- 【福地】 ■ 現在は運転しているが、将来の通院、買い物に対して不安がある。現在は利用者が少ないが、予算もあるけれども継続してほしい
- 【館合】 ■ 高齢者の足対策で、バスを使う身になると停車する場所の工夫があると、より使いやすくなる
- 【さかえ】 ■ 循環バスについて、現在のルートでよいかアンケート調査を実施してみてもいい。利用者が少なく、コースの変更を。
- 【さかえ】 ■ 循環バスの停留所について、便利なエリアだけ通っているように感じる。交通が不便な地域にも来てほしい。
- 【さかえ】 ■ 公共交通を使えば病院へ行くのにも1日かかり（安田原）。もっと便利な路線、乗り継ぎができるよう見直してほしい。
- 【山内西】 ■ 羽後交通のバスをJRと呼んだと思うが、実際利用者は少ない
- 【山内西】 ■ 公共交通を運行できる条件のハードルが高い（バス会社との交渉による）
⇒今走っている民間の路線バスはいつまで運行できるのか
⇒ポッポあいのの再開発にも影響する
- 【山内西】 ■ 路線沿いに住む人は便利だがそうでない人（特に高齢者）にはやはり不便
- 【山内西】 ■ あいのの駅～軽井沢を運行し、その後はバス路線となるので横手駅までノンストップ運行？
- 【山内西】 ■ 公共交通機関（電車・バス等）との調整は難しい
- 【山内西】 ■ 将来の民間バス運行に不安がある
- 【山内南】 ■ 路線バスの本数が減っていて、ほぼマイカー移動。
- 【山内南】 ■ 路線バスが200円になったら良い。
- 【山内南】 ■ 羽後交通の路線バス（三又線）は1日3～4往復。無くされたら困る。
- 【川西】 ■ 公共交通のバスは走ってはいるが、実際は使い勝手があまり良くない

- 【川西】 ■ 大森～大曲の路線バスが1日5往復あるが、休日はない。利用者も少ない
【浅舞合同】 ■ バスが通っても、コースから外れる地区が必ず出てくる

【デマンド交通】

- 【大雄合同】 ■ デマンド交通の利用は特定の人だけ。
【福地】 ■ デマンド、コミュニティバスは継続してほしい。利用人数が少なくてもこれからの生活に不可欠だ。
【福地】 ■ デマンドは夜、使えるようにしてほしい
【福地】 ■ デマンド交通は月300～400回くらい利用されている。デマンドは維持してほしい。朝方に予約が集中する等の問題もあるので現状を調査し、もっと使い勝手をよくしてほしい
【館合】 ■ デマンドを利用する場合、行きは良いが帰りの予約（特に病院利用）が難しい
【さかえ】 ■ 能代市の乗り合いタクシーを参考に。
【さかえ】 ■ デマンドタクシーは、エリアを越えれば料金が上がるため使いにくい。
【山内南】 ■ デマンドタクシーの料金負担を軽くしてほしい。
【山内南】 ■ デマンド交通を使ってみるまで分からなかった。利用してみると良かったので、説明やPRがもっと必要。
【川西】 ■ タクシーのデマンド交通の利用方法が分かりにくく周知の方法を工夫すべき
【里見】 ■ デマンド交通は説明が不足ではないか（横手地域の病院行き）運転手さんも説明してくれない
【吉田】 ■ デマンド交通は、途中で待ってくれないので用足しができない。乗って降りて終わり。集落をまわってくれるような移動手段、「ふれあいバス」とデマンドの両方を使う方法。
【山内西】 ■ デマンド交通の仕組みを理解していない（理解しようともしていない？）
【山内西】 ■ 車の維持費を考えるとデマンド交通も利用料は決して高いわけではないのではないか
【山内西】 ■ 実際に使っている人は通院や買い物などに利用→オンラインで対応が進んでいる
⇒Wi-fiの整備なども進めて行ってはどうか

【有償旅客運送】

- 【大雄合同】 ■ 狙半内の送迎の手法を各地へ広げるために、ドライバーの確保について

は時間と場所がはっきりしていれば各町内に時間がある人はいるはず。運営の責任という課題もある。

- 【大雄合同】 ■ 高齢者の足の確保について、狙半内の皆さんが自分たちでワゴン車を利用している事例などの情報が、市民にきちんと届くようにしてほしい。うまくいっているものを我々の地域ではどうやって取り入れたらいいのか、意見交換しながら大雄地区に合ったやり方でみんな協力していきたい。
- 【大雄合同】 ■ 地域で具体的な話が出てきた段階で、狙半内の取り組みについて奥山さんの話を聞いてみたい。
- 【福地】 ■ 有償旅客運送について、コースの変更を考えてほしい
- 【福地】 ■ 社協にささえあい事業を依頼されたが、なかなかドライバーも含め地域として難しい。福地共助組織にお願いをしたが、市としての支援もしてほしい
- 【さかえ】 ■ 免許証返納者が増えるので、共助組織で車を運行したい。車取得についてはクラウドファンディングを活用していくこともできる。
- 【さかえ】 ■ 八王寺は5地区で話し合いを繰り返している。地域が広いので全世帯対象のアンケート調査を実施し、見える化していく。
- 【山内西】 ■ 運転手の確保が課題（生活できるだけの給与を払えるか）
- 【山内西】 ■ 有償ボランティア制度や行政からの支援制度などの整備
- 【山内西】 ■ 前期高齢者の方に運転してもらい、貢献度によって特典を受けられる仕組みなども
- 【山内西】 ■ 会費制（サブスクリプション）にすれば、利用者も増えるし収入も安定するのではないか
⇒会費は親元を離れた子どもなどが負担できる仕組みも検討する
- 【山内西】 ■ 高齢者のひきこもり解消にもつながっている例もある
- 【山内西】 ■ 定期的買い物に連れて行っている
- 【山内西】 ■ 狙半内でのミニバン運行には、市から昨年280万円補助している
- 【山内西】 ■ 共助組織立ち上げまでが大変
- 【山内西】 ■ 自らの組織を作っていくことが難しい状況

【コミュニティーバス】

- 【山内西】 ■ 利用したい人のニーズ調査が必要
⇒あればいいのは確か。だが、住民アンケート調査を行い、実際に使う人がどれだけ見込めるか確認することが必要では？（共助組織がアンケートを行うことで意識の向上にもつながる）
- 【山内西】 ■ サービスの提供方法と住民が利用したい方法のマッチングができていない
⇒使わない

- 【山内西】 ■ 地区の総会などみんながあつまる場で説明会を何年かかけて意見収集して作っていかないと
- 【山内西】 ■ 無理して作っても存続できない
- 【山内西】 ■ JR北上線は日中は駅に電車が停まらない、デマンド交通だと小松川から片道2,400円位かかるし、地域に商店もないし冬季間の移動も困難なので、あると助かる
- 【山内西】 ■ バス路線のない地区からバス路線・駅までコミュニティバス運行をしても中途半端ではないか
- 【山内南】 ■ 路線バスが動いているうちは、共助バス等他のことには手を出せない。
- 【山内中央】 ■ コミュニティバスは予約制
- 【醍醐】 ■ ふれあいバスは乗客が少ないので、もっと工夫を
- 【吉田】 ■ 無料の「ふれあいバス」は、2路線週2回ずつ4回運行。29人乗りで利用者は4人程度で少ない。このままのやり方でよいのか。1日160km走行しているので運転も大変。今は何とかなっているが、今後先が見えない。不公平感、税金の無駄遣いという指摘もある。維持費もかかるため小型化の検討が必要。金融機関や病院、スーパーなどをまわるルートへの変更。バス停までの足もない人がいる。
- 【吉田】 ■ 平鹿地区のコミュニティバス「ふれあいバス」は、利用者の希望に応えたルートになっているのか？JA方面にも行きたい。

【スクールバスの活用】

- 【大雄合同】 ■ スクールバス活用の実績は？良い取り組みなので範囲を広げて欲しい。大雄だけでなく平鹿地区も含めて広く普及して欲しい。
- 【大雄合同】 ■ スクールバスの活用は良いことなので、範囲を広げ大雄に限らず路線を検討してもらいたい。
- 【大雄合同】 ■ スクールバスの活用について、土日だけでも実験的に運用してはどうか。その上で、必要かどうか各世帯へのアンケート調査を実施し、同時に問題的してもらおう。
- 【大雄合同】 ■ スクールバスの活用について。学校で土日使っていないのであれば、実験的に走らせてみてはどうか。
- 【大雄合同】 ■ スクールバスの活用について、実験路線の選定は地域要望なのか。
- 【大雄合同】 ■ 平鹿病院線や県道耳取新町方面など他の地域でもスクールバス活用を検討して欲しい。
- 【大雄合同】 ■ スクールバスの活用の路線選定について、どうしてあの路線になったのか。大雄地区は南北の路線、大曲方面への路線がないので、今後スクールバスの実証実験がうまくいったら、不便な路線への活用も考えられな

いか。

- 【館合】 ■ スクールバスを活用した実証実験で8月から下開集落を通らなくなったが、将来的に利用希望があった時には対応してもらいたい
- 【館合】 ■ 大森病院側がバス利用者に対し、配慮してくださるのでありがたい
- 【館合】 ■ 大見内方面から要望あり
- 【館合】 ■ ルートの見直しをしてほしい。例えば、JAおものがわ、雄物川郵便局、マックスバリュ等を経由する。また、行きと帰りのコースを変えるのも一方法ではないか
- 【さかえ】 ■ スクールバスの活用について、空きがあるのであれば、子どもと住民が同乗することでコミュニケーションがとれるのではないか。
- 【山内西】 ■ スクールバスの活用は考えられないか
⇒スクールバスの運行により、北上線の廃止につながるのではないかと心配（JR側に廃止の理由を与えることになりかねない）※狙半内とはこの部分で事情は異なる
- 【山内西】 ■ JR北上線の利活用につながる運行の検討も必要
- 【山内西】 ■ スクールバスを活用できる時間には制約がある
- 【山内南】 ■ 今後、スクールバスの活用を広げられないか。
- 【里見】 ■ 柏木・大森病院線バスの状況は？

【免許証の返納】

- 【大雄合同】 ■ 免許証返納後の不安がある。一度きりのタクシー券では困る。
- 【大雄合同】 ■ 運転免許証返納後、バス利用促進のため運賃補助。
- 【大雄合同】 ■ 運転免許証返納後の路線バス利用促進と合わせて、もっと利用しやすい安い料金になるよう補助を考えるべき。
- 【大雄合同】 ■ 運転免許証返納は、70歳代くらいから不安になってくる。一度きりのタクシー券が配られただけでは、高齢者の足の解決にはならないのではないかと。今後を見据え、各世帯へ問題提起を含めたアンケートを実施してみてもどうか。
- 【館合】 ■ 免許返納者の増加に伴い利用希望者が増えることが予想されるので、スクールバスの活用を幅広く考えて欲しい
- 【さかえ】 ■ 免許証返納後、自転車での買い物やデマンド利用で通院したり工夫している。タクシー券の配布は一時的なので、継続的な手当が必要。
- 【山内南】 ■ 運転免許証返納後は、足の確保に困るだろう。
- 【川西】 ■ 免許返納により運転しなくなった方が増えた。周りの方をお願いして足の代わりを果たしている現実がある。万が一、事故を起こした場合の対応が心配だし課題である

- 【浅舞合同】 ■ 免許返納者が増えている。電動自転車を活用したレンタサイクルの案
- 【里見】 ■ 免許返納する前に安全装置導入に市も支援する考えを！！
- 【吉田】 ■ 運送免許証返納者が増えたときどうするのか、今後の課題。
- 【吉田】 ■ 運転免許証返納後の心配。通院のついでに買い物もしたい。

【高齢者の見守り】

- 【福地】 ■ 交流センターのさらなる活性化で地域の見守りも含めての活動をしていくためにも市のさらなる支援をお願いする
- 【福地】 ■ 民間の力を活用→移動販売の見直し、高齢者の見守り
- 【福地】 ■ 移動販売

【その他】

- 【大雄合同】 ■ 高齢者に限らず足の確保に困っている人への対応を。
- 【大雄合同】 ■ 良い取り組みは市民全体で情報共有してほしい。
- 【福地】 ■ 在宅介護の方向性→デイサービスの将来
- 【福地】 ■ 若者減が問題
- 【福地】 ■ シェアハウス構想
- 【福地】 ■ 隣組マップの作成が必須⇒何にでもつながる
- 【福地】 ■ コロナで困っている人の支援と、テレワークの時代を好機ととらえ地域づくりに生かすべき。都会からの人を呼び寄せ空き家等の対策に生かすようにしてほしい
- 【さかえ】 ■ 「地元の総意」がなくても支援できること、乗り合いなど地域で助け合う手法を考えていきたい。
- 【山内南】 ■ まだ自分で運転したり送ってくれる人がいる。それができなくなった時にどうするか。老老介護が増えてきている。足の確保に困っている人が増えてきている。
- 【醍醐】 ■ 農家高齢者創作館は廃止したいが、維持になっている。修繕の予算が出ないのは困る
- 【浅舞合同】 ■ 送迎できる家族は仕事を持っているため、高齢者の送迎を常にできるわけではない
- 【浅舞合同】 ■ バスに乗り降りできない人、手助けが必要な高齢者、要支援者の対応は大きな課題
- 【大雄合同】 ■ 高齢者の住宅リフォームについて質問あり。

- 【大沢】 ■ 高齢者支援の予算を今までどおりつけてほしい。他の予算を削って事業をやってほしい
- 【里見】 ■ いきいきサロンは年8回くらいで比較的活発。コロナによる負の連鎖が心配
- 【里見】 ■ 若い方々の参加や一般の方々が一歩前に出てもらうための方法とは？
- 【里見】 ■ 高齢化社会でありながら老人クラブの会員不足があるのはなぜだろう
- 【里見】 ■ 老人クラブに60歳代で入りたくない！！
- 【里見】 ■ 老人クラブの名称を改める

04.除雪について

【除雪】

- 【横手南】 ■ 除雪について、狭い道路で難儀している。雪捨て場が増えてはいるが…
- 【大雄合同】 ■ 隣近所助け合いの精神がある。
- 【大雄合同】 ■ 大森地区の除雪は丁寧だ。山間部と地域差がある。
- 【大雄合同】 ■ 除雪オペレーターのプロ意識が足りないのではないか。
- 【大雄合同】 ■ 車が交差できない市道がある（拡幅要望）。地域で盛り上げて声を上げて欲しい。
- 【大雄合同】 ■ 隣の大森地区は丁寧に見えるので地域差を感じる。除雪オペレーターのプロ意識がちょっと足りないのではないか。
- 【大雄合同】 ■ 除雪オペレーターの技術を高める研修を充実させるべき。
- 【大雄合同】 ■ 除雪オペレーターの高齢化が問題。特に早朝除雪のなり手がいない。
- 【大雄合同】 ■ 除雪オペレーターの人材育成が除雪対策になる。
- 【大雄合同】 ■ 除雪の人材確保、雇用の保障をする。
- 【大雄合同】 ■ 除雪オペレーターの人材の確保について、高齢化し、なり手がいない。失業保険を付けることで期間外の収入をカバーできるようになり、なり手の確保につながるのではないか。
- 【大雄合同】 ■ オペレーターの技術を向上させる研修を充実させることで、除雪体制を保持することにつながる。
- 【大雄合同】 ■ 園芸拠点センターの受講生に冬季間の収入源の確保のために除雪オペレーターになってもらうための研修・助成などができればよい。
- 【大森】 ■ 除雪と排雪のトラックと一緒に動いてほしい。
- 【大森】 ■ 「除雪懇談会」の取り組みや地域づくり活動補助金の活用、市内の共助組織の事例などを取りまとめて市民に対し示してもらえたら、自分たちの地域にあったやり方の参考にできる。一から立ち上げようとしてもどうしたらいいのかイメージがわからない。
- 【大森】 ■ 早朝除雪について、最初に通ったルートは当然雪が多く残される。例えば1週間ごとに逆回りや別のルートにするなど平等にできないのか。いつもそれで問題になっている。

【流雪溝、融雪溝】

- 【横手南】 ■ 流雪溝の利用についても、隣近所で協力しないと難しい家庭も
- 【大雄合同】 ■ 生活排水だけでは雪が融けない。
- 【大雄合同】 ■ 流雪溝があればいい（八柏集落）。
- 【大雄合同】 ■ 流雪溝のある地域もあるが八柏集落では生活排水だけで雪は溶けない。
- 【大雄合同】 ■ 雄物川筋土地改良区の工事による水不足の問題。市報と一緒にチラシが一枚きただけで、どの程度不足しいつまでなのか情報が無い。夏場は農業用水確保のために工事ができないのは分かるが、流雪溝が使えなくなると困る。市からも要望してほしい。
- 【大森】 ■ 融雪溝の水を確保してほしい。今は水が少なくほとんど流れていない。現在ポンプが1台でせめてもう1台稼働させれば。ポンプと井戸が必要。
- 【大森】 ■ 大森街部の融雪溝は、融けるのに時間がかかる。
- 【里見】 ■ 流雪溝の利用方法が悪い人に注意！！ルールを守らせる
- 【里見】 ■ 雪対策のきめ細かい手当を求める（側溝整備、電気料補助）

【間口除雪】

- 【横手南】 ■ 高齢者の間口除雪の問題
- 【大雄合同】 ■ ひきこもりの人に近所の間口除雪を頼めないか。
- 【大雄合同】 ■ シルバー人材による間口除雪。
- 【大雄合同】 ■ 自分の家の前は自分で（自助）。
- 【大雄合同】 ■ 間口などの家庭内除雪が課題になっている。
- 【大雄合同】 ■ 高齢者世帯への対応、間口除雪の補助制度の活用。
- 【大雄合同】 ■ 町内単位で除雪機を持っていれば、間口除雪への対応は可能。オペレーターは大変だが。
- 【大森】 ■ シルバー人材への委託に対し助成しているが、人手不足。近所で助け合っ間口除雪をしているケースがあるが、今後いつまで続けていけるのか、誰がそれをやるのか。

【安全対策】

- 【大雄合同】 ■ はしごのかけ方など、屋根の雪下ろし指導が必要。
- 【大雄合同】 ■ 80歳以上には雪下ろしをさせない標語などで注意喚起。
- 【大雄合同】 ■ 屋根の雪下ろしは、毎年怪我や亡くなる方がいる。事故防止の勉強

会の指導も行っていくべき。

【大雄合同】 ■ 80歳以上には雪下ろしをさせないという標語で注意喚起したらどうか。

【大森】 ■ 屋根の上の雪を公道にしか落とせない人もいる。一斉雪下ろしの日は作れないか。雪下ろしのために公道にトラックを止めると誘導員が必要。

【その他】

【大雄合同】 ■ 除雪を70代の世代に頑張ってもらう仕組みが必要。

【大雄合同】 ■ 除雪はボランティアではなく報酬も必要。

【大雄合同】 ■ 町内会除雪機購入補助の拡充を。個人負担は大変で、地域でまとめることが大切。そもそもの補助制度が知られていない。情報共有してほしい。

【大雄合同】 ■ 地域づくり協議会から町内へ除雪機の貸与を受けたことがある。町内会活動補助金は、残りの自己負担がきつい。

【大雄合同】 ■ 除雪に関しても、地域にリーダーが必要。雪下ろしボランティア隊など、リーダーがいれば地域に組織が立ち上がる。市はリーダー育成を支援してほしい。環境美化推進委員などのように、位置付けを明確にした上で市として報酬を出せないか。

【横手西】 ■ 町内会で雪押し場の空き地の草刈りをシルバーに頼んで行っている。自分たちの住む地域を自分たちで手をかけていこうという考えがある。

【大森】 ■ よこて fun 通信で横手の雪の事情も伝えてほしい。東京にいながら実家の雪寄せをしている人や、地元で空き家などを見守ってくれている人がいる。

【大森】 ■ 消雪パイプやロードヒーティングも現実的ではない。こまめに除雪排雪するしかない。

【増田】 ■ 湯の沢歩道の除雪を要望する。

【さかえ】 ■ 雪寄せは地域での見守り効果もある。除雪対策がしっかりしてさえすれば、雪は良いものだ（かまくら）。

【さかえ】 ■ 雪下ろしの補助は一律なのか、高齢者だけか。申請の案内はいつ出たのか、市報に載ったのか、チラシは見逃す人が多い。

05.公共温泉の民営化について

【ゆとりおん】

- 【大雄合同】 ■ ゆとりおんの利活用策として「いきいきサロン」で足湯をやったらどうか。
- 【大雄合同】 ■ 「ゆとりおん大雄」は今後どうなるのか。修繕の年次計画があるはずなのになぜ実行しないのか。
- 【大雄合同】 ■ 公共温泉の民間譲渡は、経営がうまくいかなかったら市に返しても良かったのか。返されても収入はなく老朽化が進むだけ。解体も市で負担するのか。

【さくら荘】

- 【大森】 ■ さくら荘の存続を。

【ゆ〜らく、さわらび】

- 【狙半内】 ■ 公社の解散のやり方が強引であった。株主を無視していた。
- 【狙半内】 ■ ただで譲渡したのに、「やれない、返します」になぜ「はい」と言えるのか。（お叱りを受けた）
- 【狙半内】 ■ 地域局がさわらび、ゆ〜らくを管理している状態である。
- 【狙半内】 ■ さわらびを将来的にどうするのかについては譲渡先を探すということになっているが、果たしてコロナ禍の中で引き受けてくれるところがあるのかどうか。これ以上情報が無い。
- 【狙半内】 ■ ゆ〜らくだけでも残してもらいたい。地元の強い意向。
- 【狙半内】 ■ ゆ〜らくは傷みがひどい。修繕はどうするのか。その後の運営はどうするのか。問題が多い。日帰り温泉だけで生き残れるのかという現実的な問題がある。温泉は宴会をやって宿泊をして利益を稼いでいる面が大きい。
- 【狙半内】 ■ 地元としては温泉利用していることで住民の心のゆとりが生まれている。そういう部分も無視できないのではないか。
- 【狙半内】 ■ 一部に市直営ではできないのかという話もあったが受け皿であった公社が

解散しているので受け皿がない。単独で黒字化するのは難しいだろう。

- 【狙半内】 ■ 風呂に入るだけではだめかもという意見もあった。民間温泉も閉めている。
- 【狙半内】 ■ 立派でなくても良いから温泉施設を建て替えてもらえないか。
- 【狙半内】 ■ 市の考えはそもそも民間の考えからかけ離れている部分がある。少し考えて欲しい。
- 【狙半内】 ■ 温泉の湯を除雪に使えないか。

【鶴ヶ池荘】

- 【山内西】 ■ 温泉からのガスで、学校の中まで臭いが届く
⇒ハスが腐ってしまっている？池の水を抜いて対処するなどにはできないか
（以前も同様の話があったが見送った経緯があるようだ）
- 【山内西】 ■ 利用者が地域の回遊する仕組みづくりを
⇒地域資源（ウッディさんない、いぶし小屋、文化財関連など）と結び付けてツアーの開催などにはできないか（以前やったことはある）
⇒やるかどうかは経営者の考え方次第
- 【山内西】 ■ 3施設中2施設が返還されるとなった際に住民に説明があってもよかったのではないか
- 【山内西】 ■ 地域住民で民間会社を作り運営することはできないのか
⇒山内村で経営していた時は利用者が20万人、譲渡前は半減し、今はさらに落ち込んでいる
⇒地域住民で運営するには規模が大きすぎ。プロの運営でないと難しいと思う。
- 【山内西】 ■ 行政での運営であれば総合的に地域を売り込む拠点として活用ができていた
⇒今は地域住民と一緒に取り組もうとする姿勢は見られない
- 【山内西】 ■ 譲渡前の株主には出資金は返還されていない
- 【山内西】 ■ 温泉が多いがどこも苦境。ライバルが少なくなれば需要は増えるかもしれない
- 【山内西】 ■ 魅力はある施設。利用者が増えれば周辺のにぎわいにもつながる
- 【山内西】 ■ これまでの経緯を説明→特にさわらび・ゆーらくの返還について説明
- 【山内西】 ■ 地元での利用が少なくなった（集落の集まりなどの宴会の費用が高くなった）
- 【山内西】 ■ 経営の内容はどうなっているのか（赤字のようだが…）→（H30、R01年度についての市側から出された資料で説明）民間での経営のため十分に把握できていない
- 【山内西】 ■ 固定資産税や土地代などは支払われているのか→土地は無料で貸与してい

る。固定資産税は一旦支払われたが、同額を運営補助金として回している（実質的に減免している）

- 【山内西】 ■ おらだの鶴ヶ池という感覚だったのに…いつの間にか人の手に渡ってしまっていた
- 【山内西】 ■ 譲渡先はプロの経営と思っていたが、あのような経営だったらだれでもできる
- 【山内西】 ■ なぜ鶴ヶ池荘以外は返還できたのか、契約違反でないのか→これまで市側から受けた説明を行ったが十分な説明はできなかった→のちほど十分な説明をする機会を設ける必要あり
- 【山内西】 ■ 市で行った説明会では、5年間は譲渡できないことになっているなど未来のある話だったので信用していた
- 【山内西】 ■ 場当たりの対応。課題を先送りしている
- 【山内西】 ■ 市の温泉施設の民間譲渡の方針は拙速かつ強引
- 【山内西】 ■ 返還された温泉施設について新しい譲渡先を探すとの報道があったが、本当にできるのか
- 【山内西】 ■ ただでさえ大変な状況なのに、コロナ禍もある中、今後どうなるのか心配
- 【山内西】 ■ 今後改修などの費用がかかったらどうなるのか
- 【山内西】 ■ 温泉施設の経営には宴会・宿泊がないと厳しい
- 【山内西】 ■ 国、県、自治体のキャンペーンの成果もあり、市外からの客数は少し伸びている

06.(仮称)十文字中央跡地について

【(仮称) 十文字中央跡地】

- 【十文字】 ■ サウンディング型市場調査については、先日の地元説明会に参加した人は分かっているが、参加していない人は全然分からないという状態である。
- 【十文字】 ■ 今回のサウンディング型市場調査は逆に言えば地域や民間の提案を示す良い機会（チャンス）である。
- 【十文字】 ■ 十文字では市民検討委員会があり、その中では市民会館が良いのではないかという意見が出た。十文字は交通の便が良い（国道・高速・JR等）。跡地利用を考えると新規に土地を購入しなくても良いし、駐車場も広くとれるなど利点がある。東にまんが館のある増田、西に平鹿、雄物川、北に横手、南に湯沢が位置し立地条件が非常に良い。横手が拠点であるのに対して十文字は副拠点ということで立地適正化計画でも位置付けられている。十文字には道の駅があり全県的にも有名で非常にブランド力が高い。
- 【十文字】 ■ 小学校跡地はせっかく樹木があるので、緑を残すような計画はどうか。
- 【十文字】 ■ 十文字は南の玄関口である。
- 【十文字】 ■ 体育館は二小の体育館を使って欲しいとか、文化センターのホール機能は新しい庁舎のホールで十分なのか。いずれにしても中途半端である。
- 【十文字】 ■ もし市民会館を作るのであれば集客も含めて中途半端なものではダメだ。
- 【十文字】 ■ 立地適正化計画は分かるが都市計画が見えてこない。どういうまちづくりをしたいのか。例えば合併協議会の際は駅前通りの道路をしっかりとやってもらうという計画もあったが全然進んでいない。
- 【十文字】 ■ 廃校舎を学校ホテルに出来ないか。全て使えないのであれば一部壊してテニスコートなども良いのではないか。
- 【十文字】 ■ 商業地として何か建物を建てるのが良いのではないか。
- 【十文字】 ■ 学校そのものを残す方向で考えられないか。体育館、グラウンドは使いでがある。校舎もサークルなどで使えるのではないか。
- 【十文字】 ■ 学校は災害時、特に地震の時の避難所に使えるのではないか。ますます高齢化していく中では避難所の位置付けは非常に大切だ。また、仮設住宅としても使えるのではないか。
- 【十文字】 ■ 民間ではなく公共の物を一つ作って欲しい。何一つ十文字としては実現されていない。旧横手市に集中している。ねま〜れも無くなった。
- 【十文字】 ■ 駅前にも建物が欲しい。
- 【十文字】 ■ できれば小学校校舎を残して欲しい。
- 【十文字】 ■ 災害時の避難所としてどこか利用できないか。

- 【十文字】 ■ 市の財政を考えると、民間の力を借りて分譲住宅地にしても良いのではないか。
- 【十文字】 ■ 跡地は非常に広大であり、しかも十文字の一等地でもある。バラバラに分譲するのは賛成できない。
- 【十文字】 ■ 今なぜサウンディング調査になるのか。最初に跡地利用計画があつてからの小学校移転でなければおかしかったのではないか。
- 【十文字】 ■ 駅、インター含めて非常に立地が良い。横手市全体の南の玄関口であるから、もう少しじっくりみんなで考えた方が良いのではないか。あまり慌てて何かを作るといふような話ではなく、将来的に横手市全体の視点で考えて、横手市の南の玄関口としての開発をどう進めるべきかをじっくり考えたほうが良い。（同様の意見が多くあり）
- 【十文字】 ■ 中学生に意見を聞いてみたらどうか。将来の自分のまちをどうしたいか、どういふことを夢見ているか。
- 【十文字】 ■ 十文字の「中央跡地」といふ考え方。十文字には人が集まる、集める力があるといふことを考えて、じっくり計画を作つて欲しい。仙台の勾当台公園やオガールのよふな他市の例も参考にしながら考えて欲しい。
- 【十文字】 ■ B & Gが非常に老朽化しており、体育館が欲しい。卓球場も非常に老朽化しており、あわせて考えるべきではないか。
- 【十文字】 ■ 逆に、この広大な跡地を更地にするチャンス。どうやって新しいものを作り上げていくか、そのためにも一度リセットするチャンスといふ捉え方。
- 【十文字】 ■ 横手市はこれから体育館、市民会館を作る計画がある。人口のバランスを考えてどちらかを副拠点である十文字に作るべきだ。（賛成者多数）
- 【十文字】 ■ 箱物ばかりでなく、お年寄りが楽に暮らせるよふにしていきたい。

07.閉校舎・学校跡地利用について

【十文字第二小学校】

- 【三重】 ■ 第二小学校の利用については既に行政からも情報が出ているように、一階は公民館、子育て支援センター、二階が健康の駅を想定しているそうなので、あとは具体的にどう活用していくかという話になっているとのこと。
- 【三重】 ■ 地区の運動会をずっと継続して行って来た経緯がある。グラウンドを是非残して欲しい。
- 【三重】 ■ 第二小学校は防災の拠点であったり、備蓄品の倉庫であったりというような機能が必要だと考えているようだ。今検討されている保育所も隣接したところに計画が出ているという話があった。
- 【三重】 ■ 小学校跡地の再利用を考える上で、交流センター化は避けて通れない問題。実行委員会を年内に立ち上げて準備をしていく予定。
- 【三重】 ■ 学校統合が決まっている中で、今更跡地のことを話をするというのは遅いのではないかと。今後の進め方について、行政には早めの対応、早めの説明を望む。
- 【三重】 ■ 新しい施設に望む機能としてスポーツ、文化活動、サークル活動がしやすい機能、支援を望む（例えば用具の保管とか）。
- 【三重】 ■ 十文字庁舎周辺の一体的な利活用について、映画祭、ホールとしての利用が非常に多い。市民会館の機能を十文字に作って欲しい。十文字の立地良いし、跡地の広さも多くとれる。
- 【三重】 ■ 横手市の南の玄関口として、文教地域になってもらいたい。そういったまちづくりをして欲しい。
- 【三重】 ■ 横手市内にプールが無い。十文字に大会が出来る規模のプールが欲しい。

【植田小学校】

- 【植田】 ■ 部分的に利用可能と考える。例えば地域に商業施設が無いので小さなスーパーのようなものを作ったらどうか。そこに行くためのコミュニティバスがあれば良い。
- 【植田】 ■ 維持は地域でできるのか。補助はあるのか。
- 【植田】 ■ 教室を各会館にしたらどうか。
- 【植田】 ■ 校庭を残すなら地域のボランティアが必要。
- 【植田】 ■ 地域の意見をまとめていくことが大事である。

【睦合小学校】

- 【睦合】 ■ 解体してもいい。グラウンドは不要。更地にしても良い。西中のグラウンドもある。
- 【睦合】 ■ 耐用、耐震はまだ大丈夫。
- 【睦合】 ■ グラウンドはあった方が良く。運動会も行っている。
- 【睦合】 ■ 柳の木は地域のシンボル。残して欲しい。
- 【睦合】 ■ 体育館と特別教室（音楽室）は比較的新しい。お年寄りの居場所、憩いの場になるように残して欲しい。
- 【睦合】 ■ 維持管理は共同の力でやらなければいけない。しかしそれではやり切れないと思うのでサポートも頂きたい。
- 【睦合】 ■ お茶のみ、図書、音楽鑑賞などの場として残して欲しい。そういうことについてアンケートを取って集約する予定。
- 【睦合】 ■ 地域では交流センターまつりというものが行われており、やはり人との触れ合いは大事。ハードよりソフト面の強化が大事になる。
- 【睦合】 ■ 市でも維持費を出してくれないものか。
- 【睦合】 ■ 共生が大事。

08.道路・交通安全・河川・上下水道

【道路・交通安全】

- 【大雄合同】 ■ 拡幅された県道（鹿島の前から大和更生園方面への曲がり口）へのガードレール設置の要望あり⇒奥山議員から地域局長へ報告→建設部へ報告
- 【大雄合同】 ■ 要望。市道で車が交差できないところがあるようだ。承っていくが地域でもっと盛り上げて声を上げてほしい。
- 【大沢】 ■ 道路わきのゴミ対策（家電、農業資材、粗大ごみ、タイヤなど）
- 【横手西】 ■ 道路の穴埋めなど、地域局の対応は良い。
- 【保呂羽】 ■ 「滝の上」からの旧道が通行止めとなっており不便。工事費が多額となるため何かの補助等を充当できないか。復旧作業も危険なので大変。
- 【保呂羽】 ■ 波宇志別神社までの道路を拡幅してほしい。
- 【保呂羽】 ■ 道路が広がった分、車はスピードの出し過ぎで危険。どう対策すれば良いのか。
- 【保呂羽】 ■ 芦沢峠の通行止め箇所の改善について、毎年お願いしている。
- 【福地】 ■ 防雪（風）柵の整備を進めてほしい
- 【狙半内】 ■ 狙半内から東成瀬に抜ける林道を舗装できないか。
- 【亀田】 ■ 菅生地区の橋の補修についてどうなっているか返事が欲しい。（継続案件）
→調べて返事をすると発言あり ⇒10/24 返答済
- 【さかえ】 ■ 柳田駅前の自転車置き場に街灯の設置を要望。水害対策、特に排水について要望（JR 脇の水路）。
- 【山内西】 ■ 決壊し通行止めになっている道路の補修について、市側に問い合わせたところ「検討しています」との回答しか返ってこない→県道なので市では対応できない。決壊状況も大変。
- 【醍醐】 ■ 釜ノ川の市道で側溝の中がくぼんでいる箇所がある。生活水等が入り、夏に臭いがある。市に要望しているがまだ改善されていない
- 【醍醐】 ■ 田ノ新戸の道路整備を早く
- 【山内中央】 ■ 通学路の横断歩道の線が消えているところがあるので点検してほしい
- 【山内中央】 ■ 県道の白線が消えている

【河川】

- 【大沢】 ■ 河川と沢の点検
- 【大森】 ■ 河川改修の順序が悪い。（上溝川の復旧工事に時間がかかった）
- 【大森】 ■ 河川の中の土砂改修（浚渫）が課題。土砂をどこに持っていけば良いのか。やりとりの窓口を一本化してほしい。
- 【川西】 ■ 雄物川の堤防が低いところがある。危機管理を万全に！
- 【川西】 ■ 松田集落が一番危険

【水道・下水道】

- 【大雄合同】 ■ 合併後、水道水が美味しくない。
- 【大雄合同】 ■ 合併後水道水が美味しくなくなった。

09.(仮称)亀田地区園地維持対策チーム

【(仮称) 亀田地区園地維持対策チーム】

- 【亀田】 ■ 廃園した樹園地が目立ってきたので何とかしたい。また、リンゴの摘果作業など、作業する方が不足している。この二点について解決策を考えている。
- 【亀田】 ■ 関係人口ならぬ関係雇用の考え。手伝いに来てもらう人は親戚縁者だったり、りんごのことが好きな人に頼んで、作業を手伝ってもらっているのが現状。
- 【亀田】 ■ すでに労働力が不足している状況にあるが、後継者の問題がある。若い人はいるが兼業では果樹の作業は無理である。専業農家も多いが、家族総出でかからないとこの作業は無理。
- 【亀田】 ■ 担い手研修部会では人任せではなく「自分事」として物事を考えていこうという取り決めをしたということだった。
- 【亀田】 ■ 現在アンケートを取っている。今後5年後に果樹園をやれるとかか辞めるとか、内容も見せていただいた。その背景には、ある日突然廃園する樹園地があること。情報さえあれば引き受け手がいたかもしれないのにといった例が実際にあった。隣近所が実際に継続していけるのかどうかといた情報が全く入ってこないの、ある日突然木が切られるというようなことがある。廃園の情報と人とのマッチングが必要だろうという話があった。
- 【亀田】 ■ アンケートはまさしくそういった情報を得ようということで始まったとのこと。また亀田地区の中でもそれぞれ集落がある。しかし違う集落の情報というのはなかなか入ってこない。そういう情報も入れようということでアンケートを取っている。
- 【亀田】 ■ 情報を取った後、その窓口を一本化して情報を出してやる位置付けも必要だという話であった。
- 【亀田】 ■ 手伝ってもらっている人は縁故関係や友達などいっぱいいるが高齢化が進んでいる。自分でやれる範囲の樹園地、作業を逆算して、やれない部分はやめるしかないという現実もある。
- 【亀田】 ■ 果樹は機械化がなじまない。摘果作業や収穫は全て人力。
- 【亀田】 ■ 今おじいちゃんがかんばっているが、おじいちゃんが居なくなった時が問題。
- 【亀田】 ■ 前はシルバー人材センターの窓口が増田にもあったので、増田で頼めば増田の人が来る状況だった。今は横手になったので増田の人が来てくれるとは限らない。
- 【亀田】 ■ 茨城から移住してきて果樹をやっている人が一人いる。この人の場合、手が回らなくなった果樹農家の一部を借りて行っている。
- 【亀田】 ■ 増田のリンゴ、樹園地のPRが必要ではないか。去年の自転車のツーリングは非常に良かった。

- 【亀田】 ■ 果樹に魅力がないことには移住者も来ない。観光課をしてはどうか。
- 【亀田】 ■ 増田は観光課の意識が低い。山形、福島辺りは積極的に観光農園をやっている。仮に増田でやったとしても、観光の方に人を取られてまた労働力が減っていく。そのため生産に集中したほうが手っ取り早い。観光化すると暇だれが起きてくる。
- 【亀田】 ■ 雇用をしていくには経営的な感覚で物事を考えていかなければならない。人材の育成が必要である。
- 【亀田】 ■ 樹園地で直売をしている人もおり、結構車が止っている。そこにトイレもあればさらに良いのではないかと。施設を整備していくことも必要。
- 【亀田】 ■ アンケートについては5年後の農業を考える内容となっている。記名式だが無記名でもOK。労働、雇用、廃園の情報を集めるためにやっている。廃園する家で木を切ってしまうとおしまいだ。もう一回植えても20年かかる。
- 【亀田】 ■ 山形で労力的に非常に大変な山の傾斜地の樹園地を田んぼのような平場に樹園地を持ってくる場合に補助する事業がある。1割負担9割補助というもの。これは横手市には無い。これが移動改植というそうだと。これからの労働力不足、高齢化を考えると非常に重要になってくる。
- 【亀田】 ■ 地域の課題は『自分事化』して解決する試みをモットーとしている。行政頼みではなく、まずは自分たちの現状を把握して、どうすればこれから果樹を継続していけるかという話し合い（勉強会）を4回行った。講師にも来ていただき、勉強している。しかし最後には農家だけでは解決できないことも出てくるだろうと思う。
- 【亀田】 ■ 労働環境の改善も必要になってくる。例えば社会保険をかけて上げるとか、そういうことまで考えないといけないのではないかと。
- 【亀田】 ■ （仮称）亀田地区園地維持対策チームというものを作り、情報収集、園地マッチング、雇用マッチング、社会保険等の事務などを担えないか検討をしている。

10.地域づくりについて

【増田地区】

- 【増田】 ■ 少子高齢化に伴い、地域の話し合いの場も少なくなっている。平成17年に8,579人いた人口が令和2年9月では6,546人になっている。
- 【増田】 ■ 地区交流センターとして地域づくり人づくりという考え方を推し進める中で、なかなか新しいメンバーが入らない。ただ今年は数名入ってくれた。
- 【増田】 ■ 町内会同士のつながりというのはなかなかできない。またそこに目を向けていない現状がある。意見のずれや、理解不足からくる意見のずれもある。これを打破するためにネットワーク会議を作っている。これはハード事業をやるために町内会を集めて協力体制を作って、これと地区交流センターとタイアップし交流センターの事業がネットワーク会議に伝わるようなつながりを持つようとしている。
- 【増田】 ■ まちなみ保存会も人が少ない、メンバーが少ない。観光ガイドもやっているけれどもなかなか難しくなっている。
- 【増田】 ■ 防災についても消防署は増田から無くなってしまった。この前の火事の時も地元の消防団ではなく違う消防団が来られたりしていて問題がある。
- 【増田】 ■ NPOの活動もやっているがなかなか1～2年ではできることではない。発信はしているが実を結んでいない。
- 【増田】 ■ 交流センターの中には若い人もいて、30人中、30代のメンバーが3人くらいいる。ただ中抜けして40代がいない。入るきっかけづくりが大事だと思う。PTAだとか、そういうところからも募っていく必要があるのではないか。
- 【増田】 ■ 交流センター事業自体も少子高齢化になっている。他の地区交流センターはどうなっているのかなど、去年からの課題だが、なかなか見に行けてはいない状況。これからは行政だけではなく、地域活動は地域でというような方向性がだんだんできるので非常に大切。
- 【増田】 ■ 学校との連携について、今年民俗芸能の関係で増田中学校と連携したが、民俗芸能について知らない生徒が多かった。学校の授業の中で取り上げるべきではないか。今年は鑑賞会を行った。
- 【増田】 ■ 横手を学ぶ郷土学というものを横手全体で冊子で出しているが、増田地域独自の物を勉強していただいた方が良いのではないか。増田歴史散歩も出ており、こういったものも学校の副読本として活用してはどうか。
- 【増田】 ■ 学校は先生がかかわると方針が変わることも問題ではないか。
- 【増田】 ■ 昨年からの課題だがまんが館のために交流の場がなくなってしまった。もと

もと地元でまんが館の大ホールが使えるといったような約束ではなかったのか。

【増田】 ■ 昔は町民運動会や子ども会などで地域のつながりがあったが、今は少子になってきているので子ども会は隣部落と合併したりなどがあり、子ども会の中でのネットワークというのはなかなか難しい。

【増田】 ■ 市報について、是非増田のことも伝えるような取り組みが欲しい。

【館合地区（環境美化）】

【館合】 ■ 地域で行動を起こすことが大事。それを市がいかにして後押しするか。館合地区単独ではなく、関係のある地区が連携して組織化を図ってはどうか

【館合】 ■ ゴミ投棄の問題は、看板だけでなく監視カメラの設置も必要ではないか

【館合】 ■ 駐車場での身体障がい者用スペース利用のモラルの欠如問題が話題になった

【館合】 ■ 市民の皆さんにどうやって啓発していくか宿題をいただいた

【山内西地区（ポップあいののの再開発）】

【山内西】 ■ ポップあいののだけを考えても片手落ち
⇒道の駅さんない、鶴ヶ池荘、山内中跡地利用も含めエリアで考える必要がある

⇒ポップあいのの周辺には地域局、金融機関、診療所などもある人の集まるエリア

【山内西】 ■ 気楽に集まれる場所はあるといい

【山内西】 ■ そこまで来る交通手段をどうするか

⇒コミュニティバスの停留所とすることで立ち寄りやすくすれば利用者が増える

【山内西】 ■ 別の業者が入るとなれば新たな費用が発生する

【山内西】 ■ カラオケルームの利用者→R01 920人、H30 1098人、H29 1057人

【山内西】 ■ 2階にはカラオケルームと談話室がある→利用者はそれなりにいる

※優くんの聖地訪問も

【山内西】 ■ あいのの駅を利用する機会がほとんどない

⇒現時点ではあまり必要性は感じていない（交通弱者対策とのテーマと共通）

【山内西】 ■ タクシーの常駐ができないか

【山内西】 ■ 立ち寄りやすい場所で利用している人は結構多い

⇒もう少しテーブルやいす等を設置すればさらに立ち寄りやすくなる→
地区会議からも要望を

【山内西】■ 老朽化しているので、関係者の早めの検討を望む

【地区会議関係】

【大沢】■ 地区会議予算の使い方に幅を持たせてほしい

【保呂羽】■ 地区会議から要望書を出しても、しっかりとした回答がない。（添付資料参照）

【大雄合同】■ 自治会の役割が大切（自助）。

【その他】

【大森】■ 北都銀行大森支店の閉店に伴い設置された、地域局前のATMが使いづらい。屋根のない外で待たなくてはならず、階段に手すりがなくバリアフリーでない。通帳の繰越や小銭の扱いがない。

【里見】■ 里見地区にATMがなくなって不便だ（持ち帰る）

【大森】■ 今まであったものがなくなると不便を感じる。

【さかえ】■ 増田まんが美術館はどうなっているのか。観光客は通過するだけだと聞いている。増田地区に宿泊施設が必要ではないか。

11. 大沢バイパス開通に伴う旧国道の扱いについて

【工事関係】

- 【大沢】 ■ バイパスの前後の説明不足がある（取付道路工事はどうなっているか。10年ほど前に説明したきり説明もない）→後日、県振興局で住民説明会を行うことになった ⇒11/19 実施済
- 【大沢】 ■ バイパスの側道（農道）の舗装をしてほしい
- 【大沢】 ■ なかなか工事が進まない
- 【大沢】 ■ 旧国道とのつながりをもっと多くしてほしい
- 【大沢】 ■ 工事のため農道が通行止めになる（全戸に通知してほしい）
- 【大沢】 ■ 市道になった際、回数など除雪が不安→不具合は地域局へ
- 【大沢】 ■ 大雨時、用水路が不具合があるので改善してほしい
- 【大沢】 ■ 交通量が多くなるので信号機をつけてほしい
- 【大沢】 ■ 地域に対しての説明がないのはどうしてか？
- 【大沢】 ■ 工事完成の予定は？→令和4年度完成予定
- 【大沢】 ■ 騒音がひどいので対策をしてほしい
- 【大沢】 ■ 国道が市道になったときの除雪をしっかりやってほしい

【雪対策関係】

- 【大沢】 ■ 除雪は今までどおりにしてほしい
- 【大沢】 ■ 融雪、流雪の補助金は下がらない？（県→市）
- 【大沢】 ■ 流雪溝（地竹川からポンプ）について、グレーチングや雪が大量に降って詰まったときの対応などをしっかりやってほしい（組合あり）
- 【大沢】 ■ 流雪溝の整備を検討してほしい
- 【大沢】 ■ 融雪設備を今までどおり使えるようにしてほしい
- 【大沢】 ■ ポンプのつき直しに補助をしてほしい
- 【大沢】 ■ 国道と市道の除雪の回数を同じにしてほしい

【その他】

- 【大沢】 ■ ゴミステーションは地域局に伝えてある
- 【大沢】 ■ 防災無線に変わるものをしっかりしてほしい
- 【大沢】 ■ 避難所の前の舗装、センター備品の充実を図ってほしい
- 【大沢】 ■ かすみ桜、不動の滝の管理に力を入れてほしい

12.地区交流センターについて

【地区交流センター化に向けた問題など】

- 【横手南】 ■ 拠点があって交流センターとなるのか、交流センターを設置したうえで拠点を作るのかがポイントになるのではないかと
⇒拠点を設定して人が集まることによってつながりが出てくる
- 【横手南】 ■ 48の町内会、人口が約1万人おり、連携が非常に難しい。加えて、拠点が明確化されていないためにまとまりにくい現実がある。それを解決するために、地区の再編も考えなければいけない
- 【横手南】 ■ リーダーの熱意で人を巻き込んでいく必要
- 【横手南】 ■ 町内会の情報が入って来ないという現実。隣の住民さえ知らない
- 【横手南】 ■ 昔の町内会の形態が残っていて、現代の実情とマッチしていない部分もある
- 【横手南】 ■ 現状をどうするかが、横手南地区を含め、まだ地区交流センター化されていない地区全体の課題になるのではないかと
- 【横手南】 ■ 旭川町内の例が出され、地区交流センターで行うとされている4事業をほぼ行っている
- 【横手南】 ■ 地区交流センター化も大事だが、災害が頻繁に起きており、避難場所、防災センター的なものが優先されるのではないかと
- 【横手南】 ■ 横手南地区会議という括りで地区交流センターを目指すのは難しいのではないかと
- 【横手南】 ■ 48の町内会で、人数の大小もある、範囲が広すぎて狭めた中での検討はできないものかと
- 【横手南】 ■ 地区の区割りをどうすれば理想的か。一步でも前に進むために検討が必要
- 【十文字】 ■ 地区会議が大事。意見をちゃんとまとめていけると良い。交流センター化に向かっている。議長にしっかりとかじ取りをお願いしたい。地区の職員も総出でやってくれている。活性化委員という方もおり協力してくれている。
- 【西成瀬】 ■ 地区交流センター運営費（補助金）について非常に融通が利かなく、使いづらいとの意見あり。お葬式に交流センターとして花を上げることもできなかったとのこと。食糧費についても。
- 【醍醐】 ■ 地区交流センター担当について、横手地区と他地区が違うことに疑問
- 【里見】 ■ 里見地区は昔からまとまりがある。交流センターを核に地域づくりをスタート

13.横手駅西口、横手西地区について

【横手駅西口】

- 【横手西】 ■ 西地区に必要なのはまずはにぎわいづくり。西口祭りが非常に頑張っている。三枚橋の町内会でもお祭りをやっている。
- 【横手西】 ■ 西地区は商業施設に住宅地が張り付くような新興地域にある。
- 【横手西】 ■ 三枚橋地区の区画整理事業も終わりに向かい、いよいよにぎわいづくりへのスタートとなる。
- 【横手西】 ■ ライフライン、インフラの整備は行政側でしっかりとやってもらいたい。
- 【横手西】 ■ 東口に対抗できるような西口を作りたい。駅前駐車場を無料にするとかはできるのではないか。
- 【横手西】 ■ 西口（東口もそうだが）の長期展望が見えない。住民としては不安。
- 【横手西】 ■ 用事が無いと西口の人も東口へは行かない。
- 【横手西】 ■ 図書館は西口にあったほうが良かったのではないか。
- 【横手西】 ■ 横手駅周辺、また十文字中心部の将来の姿が見えない。長期展望が見えない。もっと住民の声を吸い上げる方法を考える必要があるのではないか。
- 【醍醐】 ■ 合併10年以上になるが地域差が現存する。横手駅周辺ばかり充実している。

【人口増加地域における自治会運営】

- 【横手西】 ■ 新興住宅街であるがゆえにコミュニケーション、コミュニティ不足。アパートが多いのがその一因。町内会への加入促進が必要。市報も町内会から渡すようなやり方が無いものか。（現在はアパートの大家が配布したりしている。）
- 【横手西】 ■ 町内会毎に温度差がある。昔は町内会は子ども会から派生しているようなところもあり、子ども会は必要。子どもが来れば親も祖父母も来る。
- 【横手西】 ■ お祭りの太鼓など、コロナでなかなかやれなかったが今年はやったという話もあった。地元の行事が地域のつながりを強くする。
- 【横手西】 ■ 町内に新しい家がどんどん増えているためにまとまりが少ない。コロナで大人数の集まりは出来ないので、廃品回収を行っているところもあったし、お祭りで世代間交流をしているところ、また地区内でごみ拾いをしているというようなところもあった。いずれ交流を密に行うことで新しい、増えていく家との一体感を作っていこうという考えがあった。高齢者がコロナで交流に慎重になっているが、これからはそういった対応も必要になってくると思われる。

14.公共施設の利活用について

【旧地域局跡地、旧消防分署跡地、蛭野分館、樽見内分館】

- 【浅舞合同】 ■ 旧地域局跡地はもう少し明るくし、舗装されていない部分を舗装してもらいたい
- 【浅舞合同】 ■ 平鹿分署跡地は利活用が難しく、売却するしかないのでは
- 【浅舞合同】 ■ 樽見内分館は、譲渡するにしても修理を万全にしてからにしてほしい。特に、冷暖房、洋式トイレがない
- 【浅舞合同】 ■ 蛭野分館、学校機能はなくなったが、地域の皆さんが十分に利活用している。地域で集まりやすい場所。高齢者の利用が多い
- 【浅舞合同】 ■ 今後の維持管理が課題。文化財保護の機能があり維持できているが、なくなれば自主運営は難しいのでは。若い人の利活用は少ない
- 【浅舞合同】 ■ 浅舞中心部の寂れていくのを感じる。庁舎移転の関係もある
- 【浅舞合同】 ■ 中心部に公共の公園があってもよい。トイレや水飲み場等、管理コストもそれほどかからない
- 【浅舞合同】 ■ 浅舞酒造が近くにあり、コラボレーションによって地域の活性化が図られるのではないか
- 【浅舞合同】 ■ 協議時間が足りなかった
- 【浅舞合同】 ■ 旧地域局跡地は、町の中心部であり、地元の賑わいづくりのために活用する方法が必要
- 【浅舞合同】 ■ 各種団体の話し合いにより、月1回できればいいが、できなくても年数回の行事を開催できないものか。それにより地域の活気も増す
- 【浅舞合同】 ■ 地域を引っ張る人、仕掛け人が必要である
- 【浅舞合同】 ■ 普段は駐車場や広場として利用、行事の際はイベント広場としての活用が考えられる
- 【浅舞合同】 ■ 地元企業との連携
- 【浅舞合同】 ■ 平鹿分署跡地は、宅地としての活用がよいと思う
- 【浅舞合同】 ■ かつては浅舞に料理屋さんが多くあったが少なくなった。美味しいお酒と料理を提供してくれるお店があれば人出も増える
- 【浅舞合同】 ■ 蛭野分館は当面は利用者がいる。子どもたちが利用しなくなったら、ライスセンターとしての活用も一案
- 【浅舞合同】 ■ 両分館については、老朽化が激しく、どうするかがキーポイント

15. 学校、教育、教育環境、設備について

【学校、教育、教育環境、設備】

- 【横手西】 ■ 西地区では学区割に問題がある。南小、北小、朝倉小学区の3つがある。一つの町内会で3つに分かれているところもある。学区の再編はなかなか難しい問題だが将来的には解決していかなければいけない。
- 【吉田】 ■ 平鹿中学校のスクールバス乗車場（吉田駐在所付近）から1キロ程歩いて帰る間に、街灯のない箇所がある。夜1人で歩くことに危険を感じる。（中学生の意見）⇒対応済（2カ所設置）
- 【吉田】 ■ 平鹿中学校大規模改修工事後に雨漏りがある（階段付近のホールあたり？）。（中学生の意見）
- 【吉田】 ■ 平鹿中学校の特別教室棟へ続く長い廊下は、冬寒く夏は暑い。（中学生の意見）
- 【吉田】 ■ 平鹿中学校はテニスコートで水はけが悪い。他の学校と練習環境にハンデがある。（中学生の意見）
- 【吉田】 ■ 平鹿地区の小学校統合計画はあるのか。吉田小学校は来年16人入学。
- 【吉田】 ■ スポーツ少年団・クラブ活動について。吉田小マーチングバンド部は15人しかおらずマーチングができなくなっていて、旭小と統合のうわさを聞く。野球は吉田小と醍醐小がすでに統合しているが20人以下。スポ少の統合は、練習場所への移動や新しいユニフォームの購入など親に負担が掛かっているため、子どもはやりたいのに家庭の事情で続けられないケースがある。練習場に照明がないことにも格差を感じる。自分たちで投光器を購入した事例もある。
- 【福地】 ■ 雄物川高校を特色ある学校として存続させてほしい
- 【沼館】 ■ 高校の統合が検討されている。これが実現すれば地域から子どもたちがいなくなるのが心配。
- 【吉田】 ■ 県立高校の再編。
- 【吉田】 ■ 教育スペシャリストを招へい。
- 【山内西】 ■ 歩道を利用して通学している児童を冬季間スクールバスに乗せられないか（除雪が遅く間に合わない）

16.集会施設の負担軽減化について

【集会施設改修】

- 【山内中央】 ■ 交流センターの補助金について、山内は一本化なので60万円だが増やしてほしい
- 【山内中央】 ■ 屋根修理に3分の1補助をしてもらい助かった
- 【山内中央】 ■ 無くすわけにはいかない。できる限り保持していきたい→今後も負担軽減するよう補助してほしい。もっと補助率をUPしてほしい
- 【山内中央】 ■ 相野々改善センターを解体するという話がある ※譲渡予定→地元では受けない
- 【山内中央】 ■ 南相野々1区の施設の使用基準（地域限定）をなくしてほしい→（回答）使用基準は特にナシ
- 【山内中央】 ■ FM計画について、山内体育館は存続、陸上競技場をグラウンドゴルフ場として残してほしい
- 【山内中央】 ■ 集会施設は自治会所有26カ所、市営8カ所。地域で公共施設のあり方を検討すべき
- 【山内中央】 ■ 改修の補助率が3分の1しかなく、1戸あたりの負担が多くなる。メンテナンスは100%助成を望む
- 【山内中央】 ■ 空き家を会館に利用する方法に支援はないのか

【維持費用】

- 【吉田】 ■ 公民館で壮年スポーツ教室に参加しているが、使用料が有料になった。健康寿命を延ばすために活動しているのに、それはどうなのか。
- 【さかえ】 ■ 公民館有料化により、市民活動に使いにくくなっている。市民が良く利用している施設が前ぶれなく値上げされた。「生涯学習」の位置づけや無料となる線引きが分からない。子どもからも一人ずつお金を集めているようだ。事前に説明会があったことを知らない。
- 【吉田】 ■ 公民館の草刈り機を更新してほしい。15年使っている。昨年の市長と語る会で意見したが何の返事もない。回答がほしい。

17. スポーツ施策・公共施設

【スポーツ施策・公共施設】

- 【大雄合同】 ■ 横手体育館や市民会館の方向性について、駐車場確保は大切。
- 【大雄合同】 ■ 「スポーツ立市」は市民不在ではないか。施設の利用料金をとるのであれば修繕を行うべき。団体への補助金も減らされている。
- 【大森】 ■ 大森球場の有効活用を。小中学校の練習や大会で使用しているが、高校生の大会でも使えるようにしてほしい。外野のフェンスなどが痛んできている。
- 【大森】 ■ 大森テニスコートの完成後、せっかくの施設を広く長く多くの世代に活用してもらえるようなアピールを。リゾート村の行事と合わせた活用を。
- 【里見】 ■ 市の建設予定の大型施設は慎重に考えるべきだ
- 【吉田】 ■ 新しい体育館を建てるのであれば、横手市の中心の吉田地区へ。
- 【吉田】 ■ 市町村合併時、本庁舎を平鹿地区に建てる話はどうなったのか。
- 【吉田】 ■ 吉田のグラウンドゴルフ場の水はけが悪い。
- 【大森】 ■ 能代市役所では、窓口での死亡手続きをワンストップで行うことが報道されていた。横手市でも検討してほしい。
- 【さかえ】 ■ 公衆トイレの洋式化を早急に。和式トイレは使えない人が増えている。
- 【さかえ】 ■ 最近、横手公園の管理がされていない。増田への投資が落ち着いたら整備してほしい。公園のSLを街中に移動させたらどうか。
- 【さかえ】 ■ 要望。人が集まる施設は椅子にしてほしい。
- 【沼館】 ■ 河川公園がキャンパーが多く賑わっているが、トイレが汚い。場所含め新しくしたらどうか。

18.有害鳥獣、アメシロ、ナラ枯れ

【有害鳥獣・アメシロ・ナラ枯れ】

- 【大雄合同】 ■ アメシロ防除の散布機械が地域局に2台あって貸し出しをしていた。今は壊れて1台しかなく困っている。なぜ更新しないのか。町内で購入する際に補助してほしい。何事も予算がひっかかる。いい意見を出しても却下される。なぜダメなのか理由が分からない。
- 【大沢】 ■ 熊対策→林道整備
- 【横手西】 ■ 熊対策についてはどこでやっているのか。いかに住民に早く情報を伝えるかが重要。里山の手入れも必要だ。また猟友会への補助金が少ないのではないか。
- 【福地】 ■ 熊対策
- 【保呂羽】 ■ ナラ枯れの問題が出てきている。山林が管理されなくなってきている。
- 【保呂羽】 ■ カモシカによる農作物の食害被害が深刻。天然記念物であることは理解するが、里に出たら駆除対象にするなど対策をお願いしたい。保呂羽山の道路沿いは全て40年間休猟区になっていることも問題。1~2週間程度山に入れるようにしなければ、そのために猟友会の人材も減ってきている。
- 【山内南】 ■ イノシシ被害が増えている。里山の生態系が変化している。

19. 農業について

【農業】

- 【大沢】 ■ J A と市の関係。色彩選別機の補助金は市で助成してほしい。機械がない人はヘリ防除2回あり。その他のことについても、組合員が有利になるように助言してほしい
- 【さかえ】 ■ ライスセンター・カントリーエレベーターが混雑していると聞く。刈り取りが遅れることで米どころの品質が低下しないか心配。
- 【さかえ】 ■ 県内で昨年の新規就農者は241人で内118人は農家以外から。
- 【醍醐】 ■ 農業振興
- 【醍醐】 ■ 農業の後継者がいないことでリンゴ畑は廃園になり、産地がなくなる。行政の支援が必要
- 【醍醐】 ■ 所得アップや後継者不足は個人では困難。法人化等対策を！！
- 【吉田】 ■ 特産品、りんごのPRを芸能人を呼んで。
- 【吉田】 ■ ICTを活用したスマート農業への若者の参入。菅総理の力で横手で最先端の実証実験ができないか。
- 【吉田】 ■ 国の補助金を有効活用したスマート農業の推進を。（中学生の提言）
- 【吉田】 ■ 果樹試験場の有効活用、稲作適地。
- 【吉田】 ■ 集落営農から農業法人化への推進を。
- 【さかえ】 ■ 大屋寺内熊の沢へ養豚場ができるという話がある。環境問題が心配で町内で反対しているが、市内の他の地域では問題になっているのか。臭い対策など近代的な養豚施設整備への支援は行っているのか。

20. 空き家問題について

【空き家】

- 【さかえ】 ■ 危険空き家に対する市の対応は。今後増えることが心配。
- 【里見】 ■ 倒壊の恐れがある空き家の処理を話し合う
- 【里見】 ■ 空き家の対策について市としての方向性を示せ→（議員）全国的にも空き家条例制定早い。空き家があると路線価が下がる（財産価値が下がる）まちづくりに影響。なかなか周知ができてない
- 【里見】 ■ 地域差を感じるが空き家増。予備軍が多くなっている
- 【吉田】 ■ 空き家＋農地で売り込む。一般質問よかった。空き家バンクは農地転用の緩和を。空き家バンクの宣伝をしているか、もっと需要はあるはず。

21. 病院

【病院】

【大雄合同】 ■ 大森病院の存続は大丈夫か。

【大森】 ■ 大森病院の夕暮れ診療が無くなるという噂がある（今はコロナ禍で休んでいるが）。利用しやすいので無くされると困る。

【大森】 ■ 国の病院再編方針について、他県はどのような動きをしているのか。市内に3つの病院があることは恵まれている。3つが2つにならなければ良いが。

22. 議会、議員について

【議会・議員】

- 【大森】 ■ 議会（決算）関係資料（主要な施策の成果を説明する書類など）も議会HPに掲載してほしい。
- 【大森】 ■ 議員の多様性について。湯沢市議会では女性議員がいないことが新聞で話題になっていた。横手市ももっと増えてほしい。
- 【さかえ】 ■ こういう機会でないと言議員と話ができない。選挙公報で公約を並べられても分からない。一つ一つの政策に賛成か反対かを示してほしい。高齢者はインターネットを使えない。
- 【浅舞合同】 ■ 議会中継のダイジェスト版を流してほしい。議会だよりは短すぎて分からないし、録画中継をフルに見るのは長すぎる。ダイジェストは要旨が分かって非常によい
- 【横手西】 ■ なかなか住民の考えが行政に伝わらない。実現につなげてもらえないため不安に思っている。
- 【さかえ】 ■ 雪対策に限らず様々な支援策が市民に伝わっていないし、高齢者に理解されていない。議会報告会のような話し合いの場が大切。